

竹田市
男女共同参画に関する市民意識調査

令和4年3月

竹田市

目 次

I	調査の概要.....	3
	(1) 調査の目的.....	3
	(2) 調査対象.....	3
	(3) 調査の方法及び期間.....	3
	(4) 回収状況.....	3
	(5) 調査結果利用上の注意.....	3
II	一般市民に向けた意識調査.....	4
	1 あなたご自身のことについて.....	4
	2 男女共同参画に関する意識について.....	6
	3 用語について.....	10
	4 職業について.....	11
	5 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)について.....	16
	6 地域・社会活動の参加について.....	20
	7 高齢期の生活について.....	22
	8 子どもの教育について.....	25
	9 ドメスティック・バイオレンス(配偶者・恋人間の暴力)について.....	26
	10 男女の人権について.....	30
	11 女性の活躍について.....	35
	12 男女共同参画推進に向けた施策について.....	37

I 調査の概要

(1) 調査の目的

竹田市では、女性をとりまく状況を総合的に把握し、広く市民の皆様のご意見を反映させた「第2次男女共同参画プランたけた（竹田市男女共同参画計画）」を平成28年3月に策定しています。計画の中間見直しを実施するにあたり、計画の中間年度における進捗状況及び市民意識の現状を把握することを目的として、「男女共同参画に関する市民意識調査」を実施しました。

(2) 調査対象

市内に居住する18歳以上の市民1,000人（住民基本台帳より無作為抽出）

(3) 調査の方法及び期間

方法：郵送による調査票の配布及び回収
期間：発送日：令和3年8月10日（火）
締切日：令和3年8月31日（火）

(4) 回収状況

配布数	1,000件
有効回収数	468件
有効回答率	46.8%

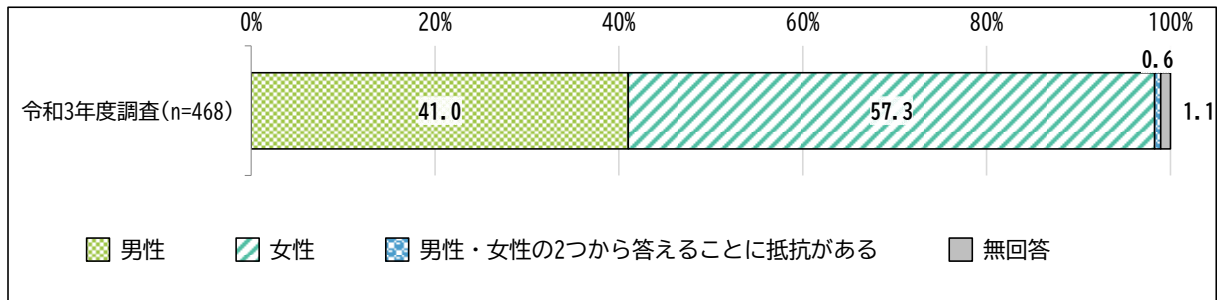
(5) 調査結果利用上の注意

- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 本文中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。

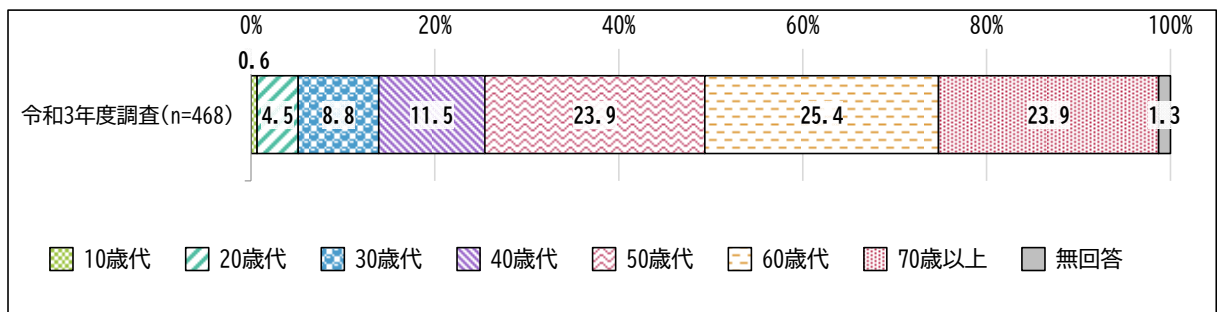
Ⅱ 一般市民に向けた意識調査

1 あなたご自身のことについて

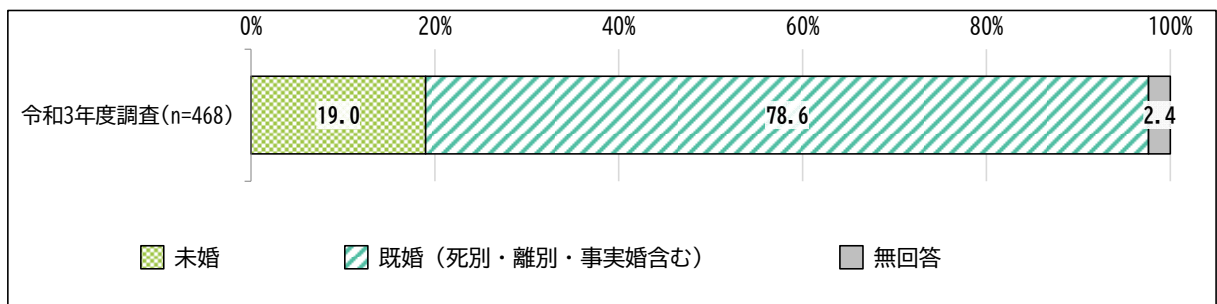
●性別



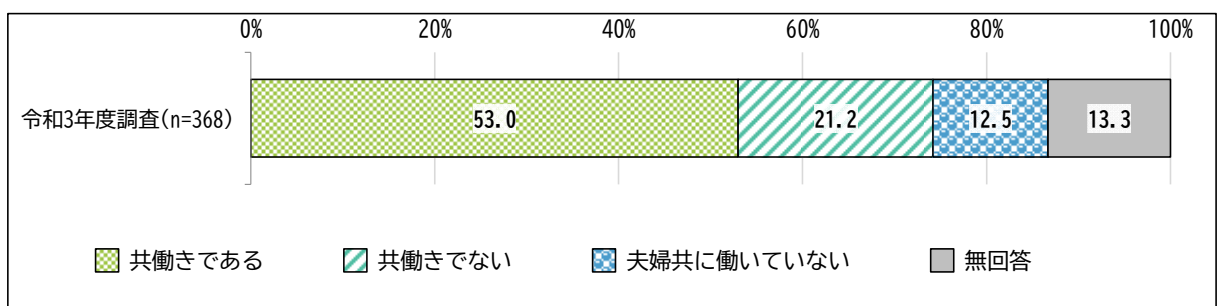
●年代



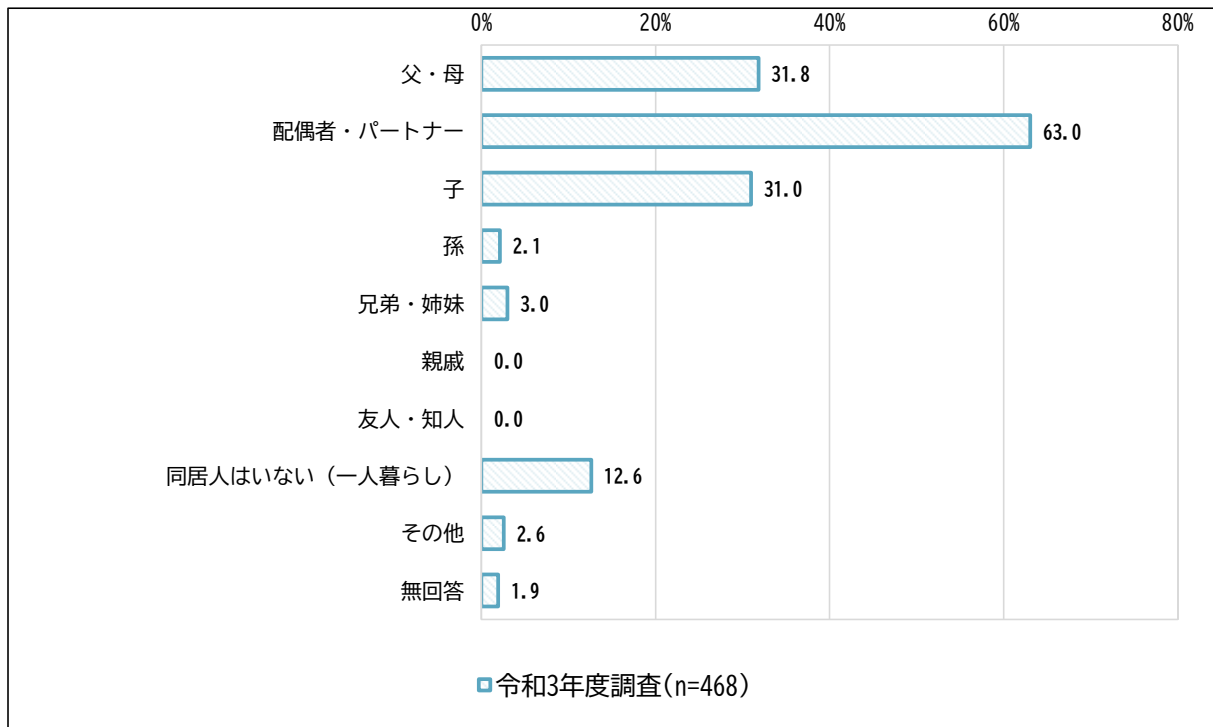
●婚姻状態



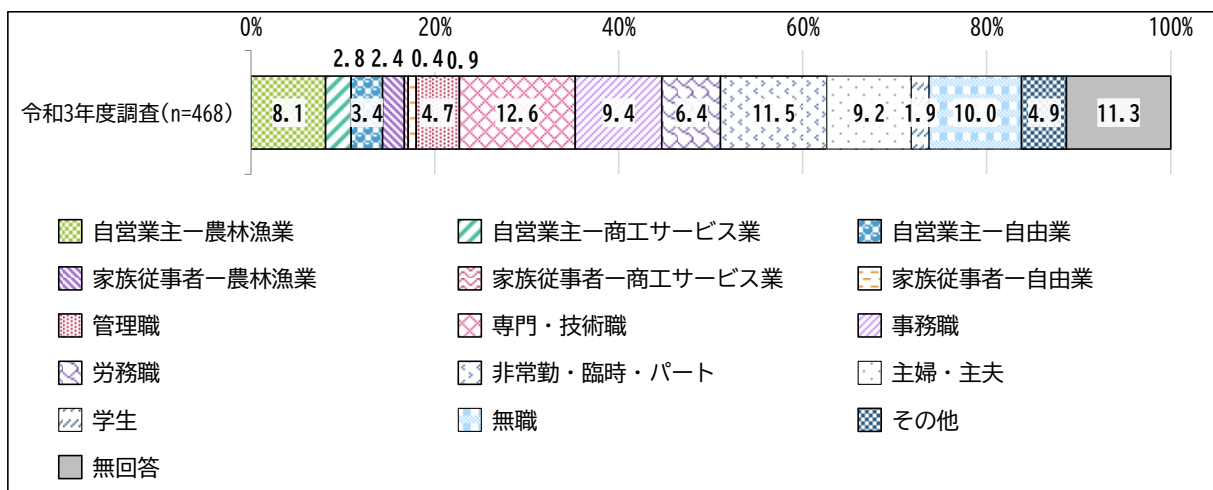
●配偶者の就業状況



●同居者



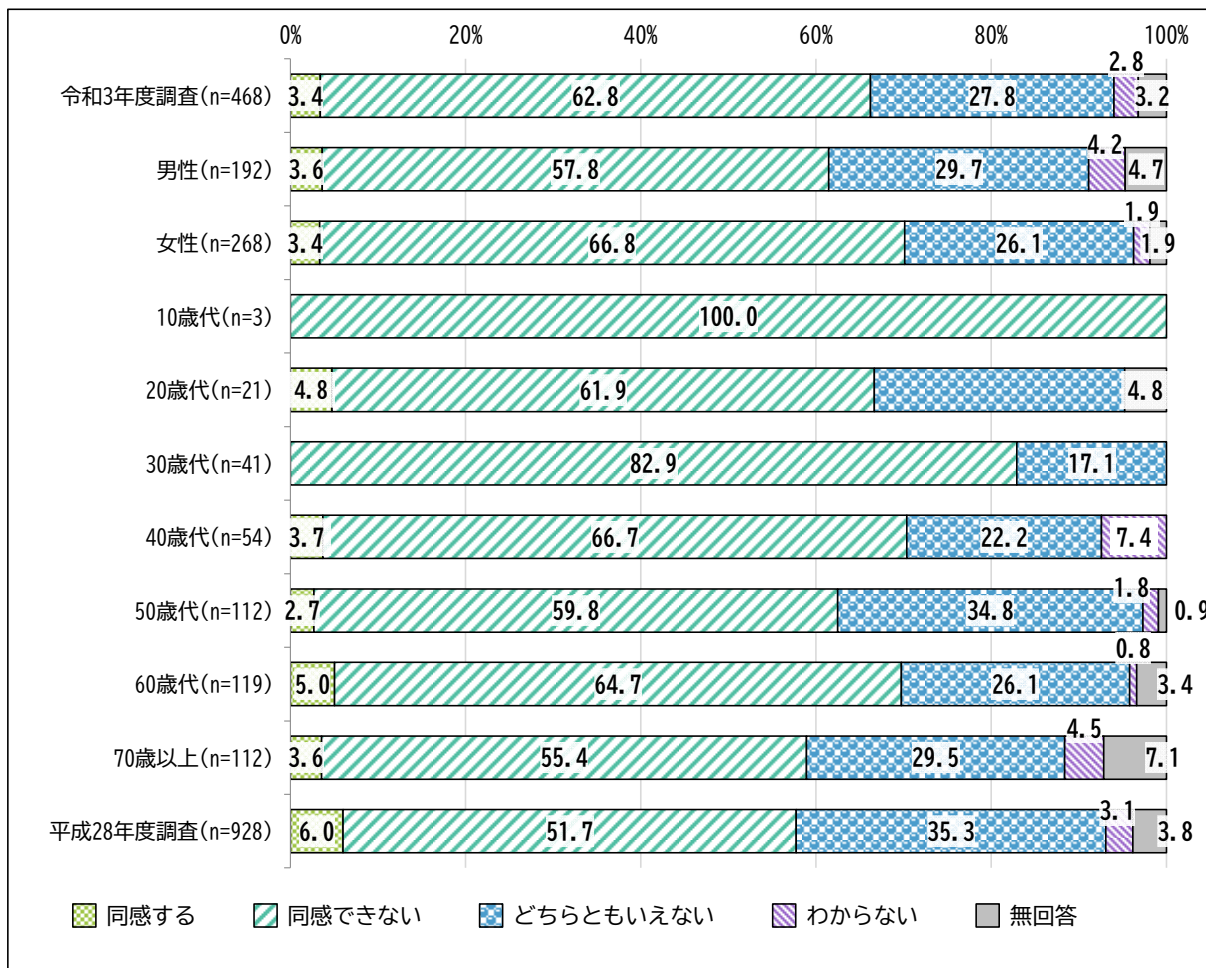
●職業形態



2 男女共同参画に関する意識について

問 1 「男は仕事、女は家庭」などと性別によって役割を固定する考え方について、どう思いますか。(単数回答)

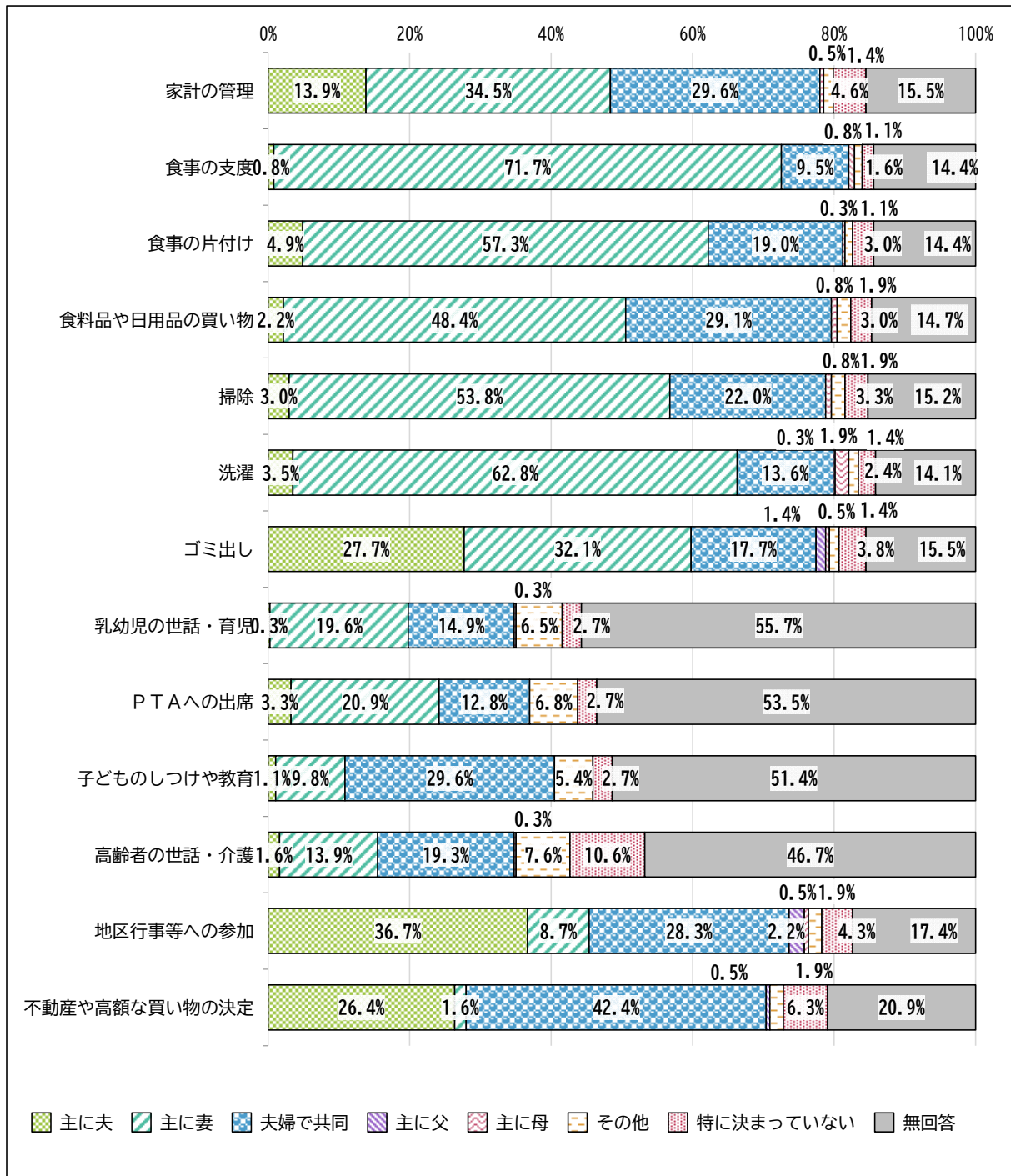
- 「男は仕事、女は家庭」などと性別によって役割を固定する考え方について、全体では、「同感できない」(62.8%)の割合が最も高く、次いで「どちらともいえない」(27.8%)、「同感する」(3.4%)となっています。
- 男女別で見ると、男性と比較して女性では「同感できない」の割合が9.0ポイント高くなっています。
- 年代別にみると、30歳代では「同感できない」が8割を超えています。また、「どちらともいえない」の回答は50歳代が最も高く、34.8%となっています。
- 前回調査との比較では、「同感できない」が11.1ポイント高く、「どちらともいえない」が7.5ポイント低くなっています。



■現在、結婚や事実婚をされている方におうかがいします。

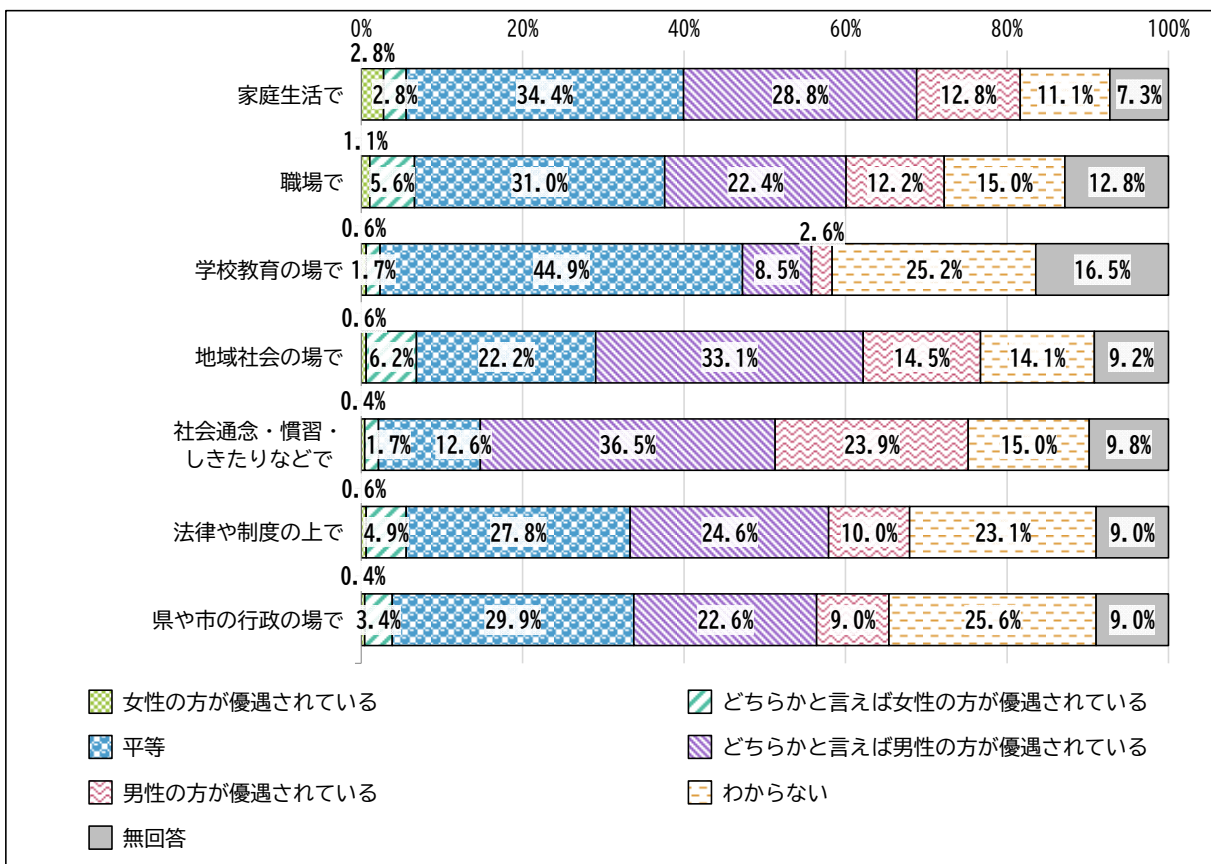
問2 あなたの家庭では、家庭内の役割分担をどのようにしていますか。(単数回答)

- 家庭内での役割分担について、「主に夫」では「地区行事等への参加」(36.7%)、「主に妻」では「食事の支度」(71.7%)、「夫婦で共同」では「不動産や高額な買い物の決定」(42.4%)の割合が最も高くなっています。
- 「地区行事等への参加」では「主に夫」、「子どものしつけや教育」、「高齢者の世話・介護」、「不動産や高額な買い物の決定」では「夫婦で共同」、それ以外のどの項目も「主に妻」の割合が最も高くなっています。



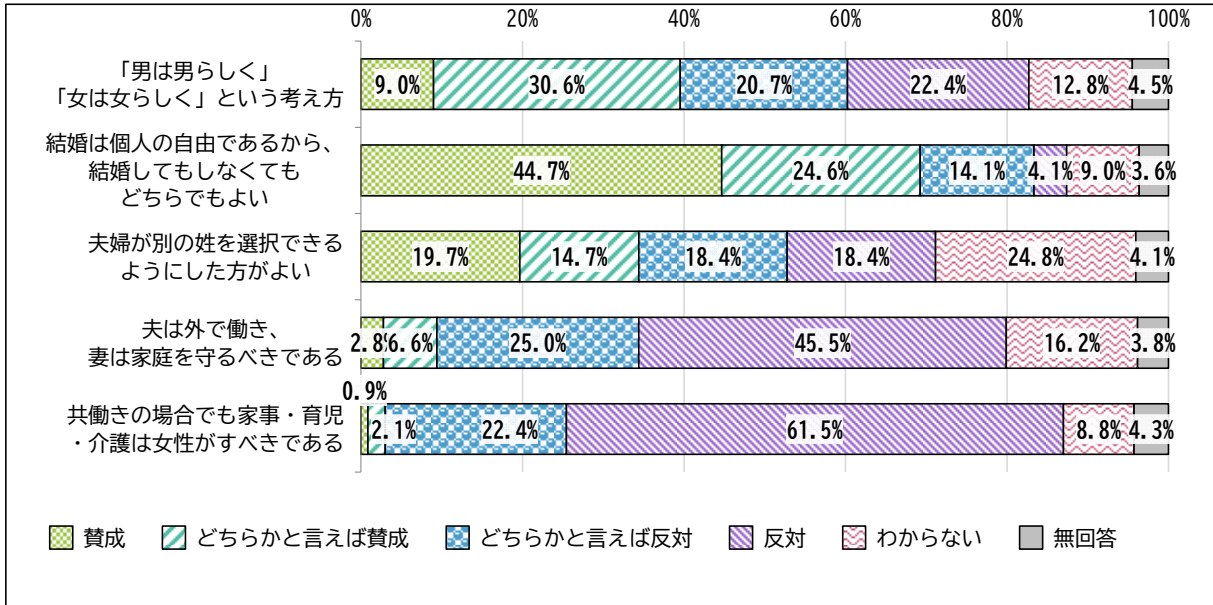
問3 あなたは、次のような分野で、今の男女は平等になっていると思いますか。(単数回答)

- 各分野における男女の平等感について、「地域社会の場で」、「社会通念・慣習・しきたりなどで」では「どちらかと言えば男性の方が優遇されている」の割合が最も高く、それ以外では「平等」の割合が最も高くなっています。
- 男性優遇（「男性の方が優遇されている」＋「どちらかと言えば男性の方が優遇されている」）と考える割合で最も高いのは、「社会通念・慣習・しきたりなどで」となっており、6割を超えています。
- 女性優遇（「女性の方が優遇されている」＋「どちらかと言えば女性の方が優遇されている」）と考える割合は、すべての項目において1割以下となっています。



問4 結婚、家庭について一般的にどのようにお考えですか。(単数回答)

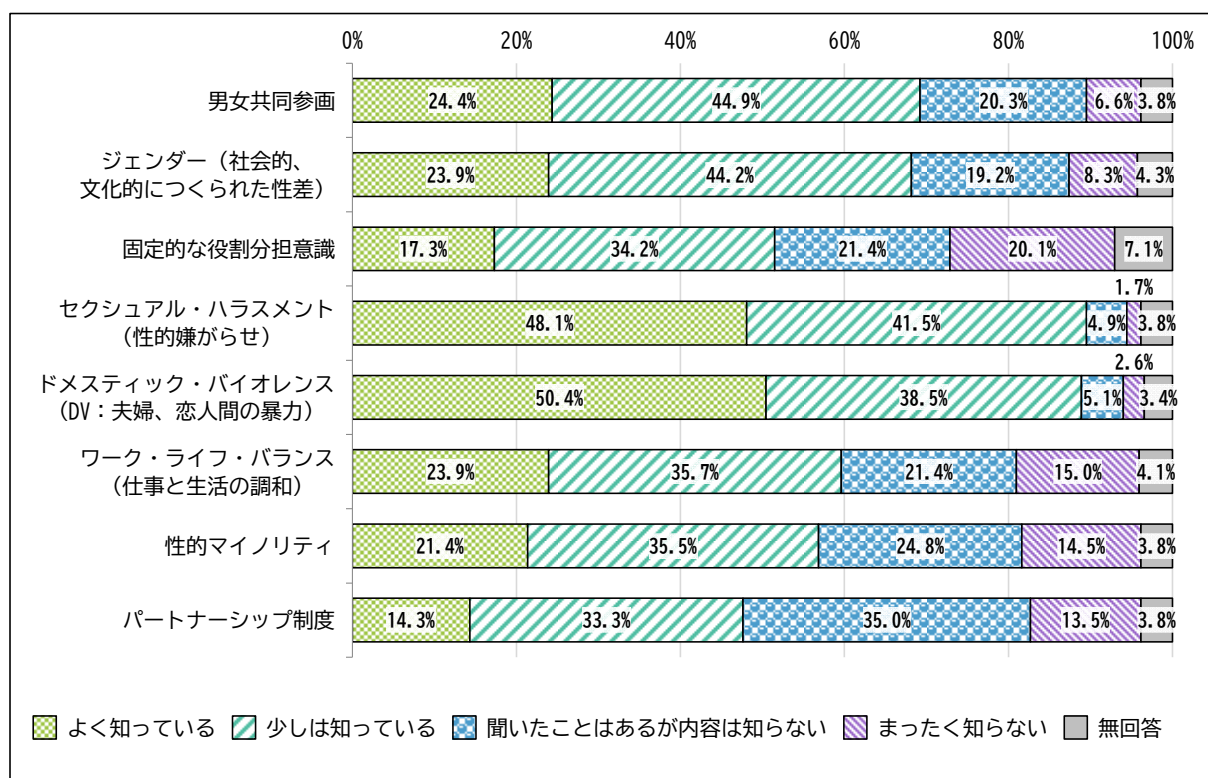
- 結婚、家庭について、賛成（「賛成」＋「どちらかと言えば賛成」）と考える割合で最も高いのは、「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」（69.3%）となっています。
- 一方、反対（「どちらかと言えば反対」＋「反対」）と考える割合で最も高いのは、「共働きの場合でも家事・育児・介護は女性がすべきである」（83.9%）となっており、8割を超えています。



3 用語について

問5 あなたは、次の用語について知っていますか。(単数回答)

- 用語について、「よく知っている」では、「ドメスティック・バイオレンス」(50.4%)の割合が最も高く、次いで「セクシュアル・ハラスメント」(48.1%)、「ジェンダー」・「ワーク・ライフ・バランス」(ともに23.9%)となっています。
- 知っている(「よく知っている」+「少しは知っている」と考える割合が高いのは、「セクシュアル・ハラスメント」、「ドメスティック・バイオレンス」となっており、8割を超えています。
- 知らない(「聞いたことはあるが内容は知らない」+「まったく知らない」と考える割合が高いのは、「固定的な役割分担意識」、「パートナーシップ制度」となっており、4割を超えています。

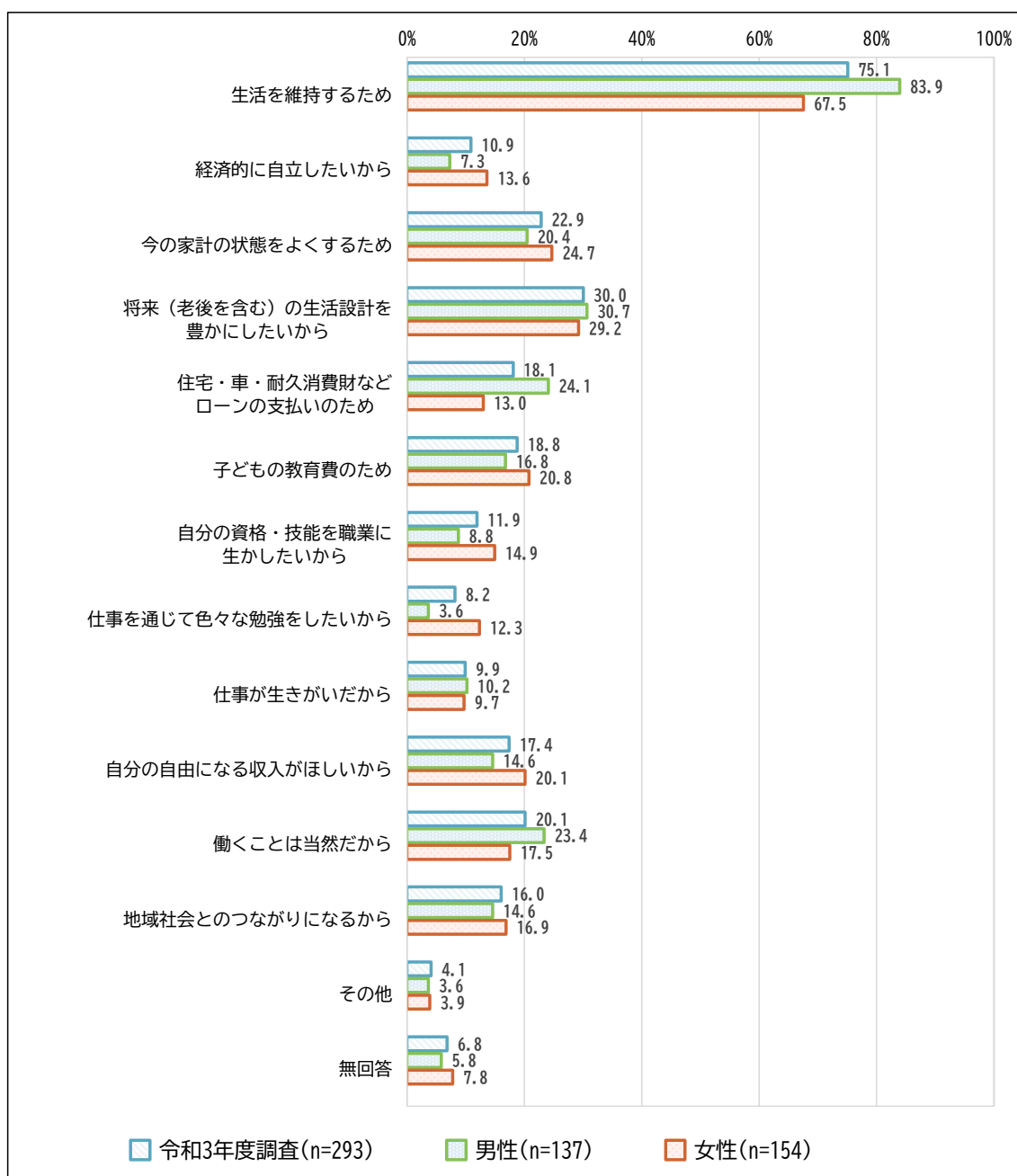


4 職業について

■問6は現在職業(収入を伴う仕事)をもっている方のみご回答ください。

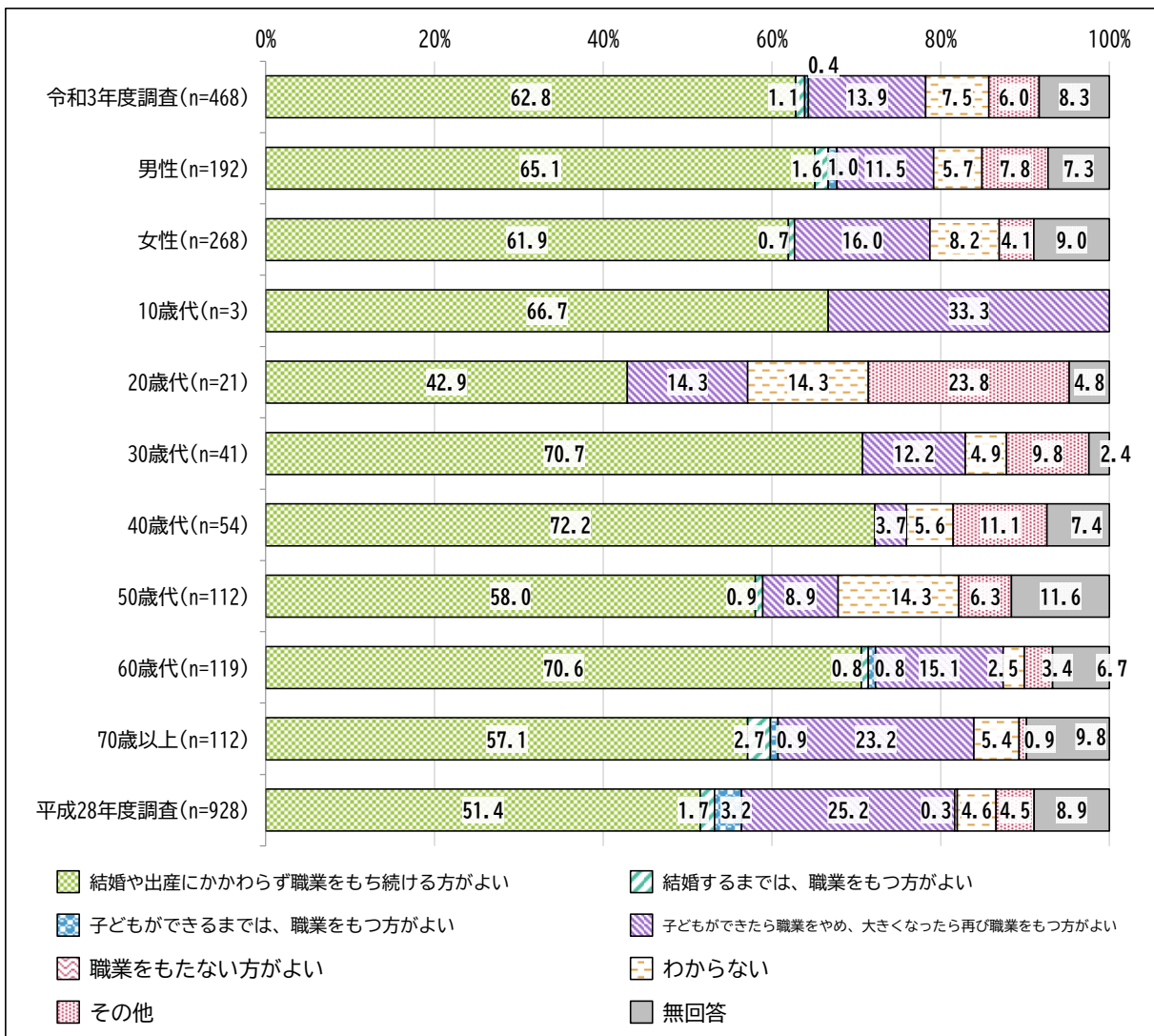
問6 職業をもっている方に伺います。あなたが今職業をもっている理由は何ですか。
【3つまで選択】(複数回答)

- 職業をもっている理由について、全体では、「生活を維持するため」(75.1%)の割合が最も高く、次いで「将来(老後を含む)の生活設計を豊かにしたいから」(30.0%)、「今の家計の状態をよくするため」(22.9%)となっています。
- 男女別にみると、女性と比較して男性では「生活を維持するため」の割合が16.4ポイント高くなっています。



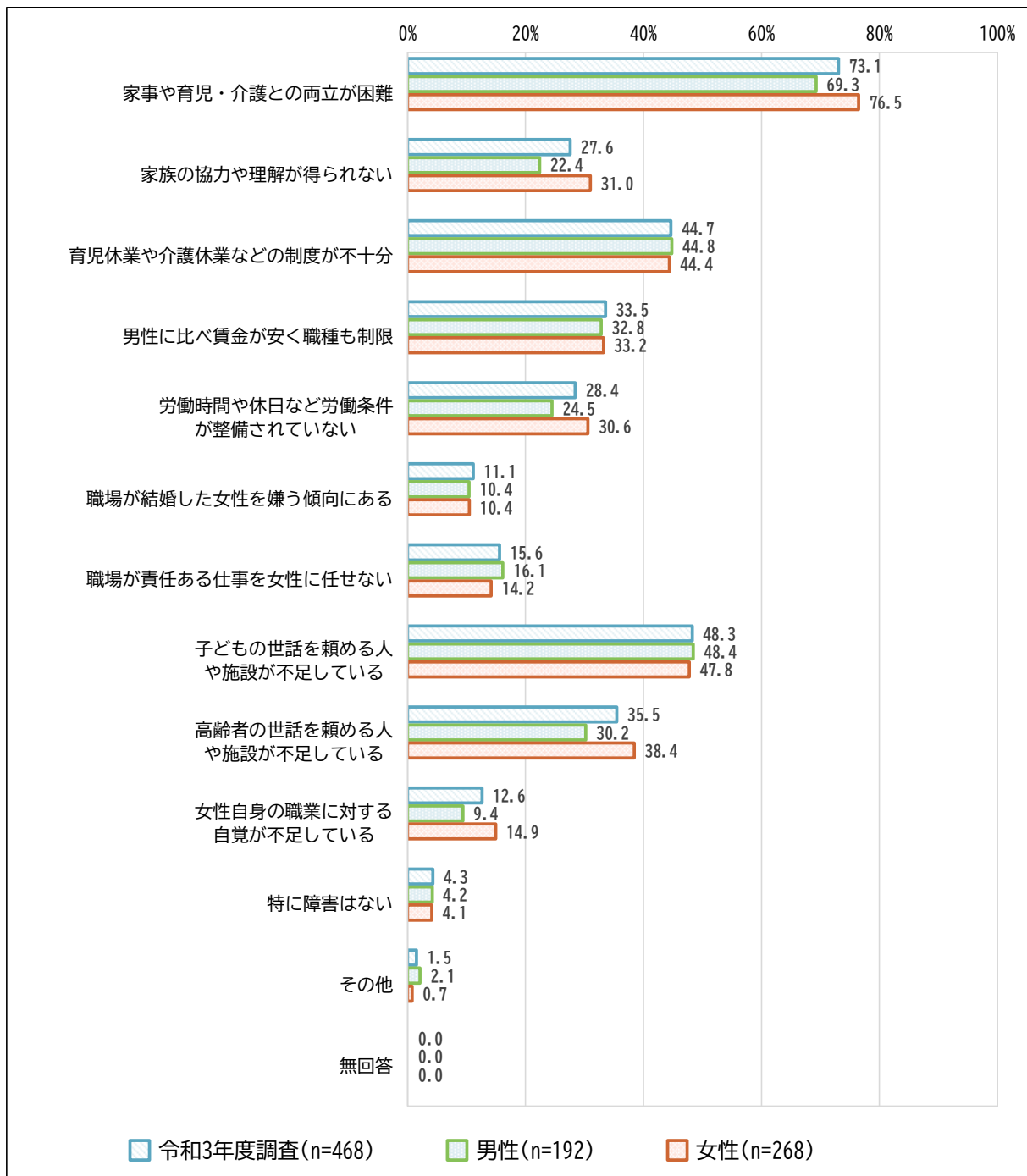
問7 女性が職業をもつことについてどのように思いますか。(単数回答)

- 女性が職業をもつことについて、全体では、「結婚や出産にかかわらず職業をもち続ける方がよい」(62.8%)の割合が最も高く、次いで「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」(13.9%)、「わからない」(7.5%)となっています。
- 男女別にみると、男女間であまり差はみられませんが、男性、女性ともに「結婚や出産にかかわらず職業をもち続ける方がよい」が最も高く、6割を超えています。
- 年代別にみると、30歳代、40歳代、60歳代では「結婚や出産にかかわらず職業をもち続ける方がよい」が7割を超えて高くなっています。
- 前回調査との比較では、「結婚や出産にかかわらず職業をもち続ける方がよい」が11.4ポイント高く、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が11.3ポイント低くなっています。



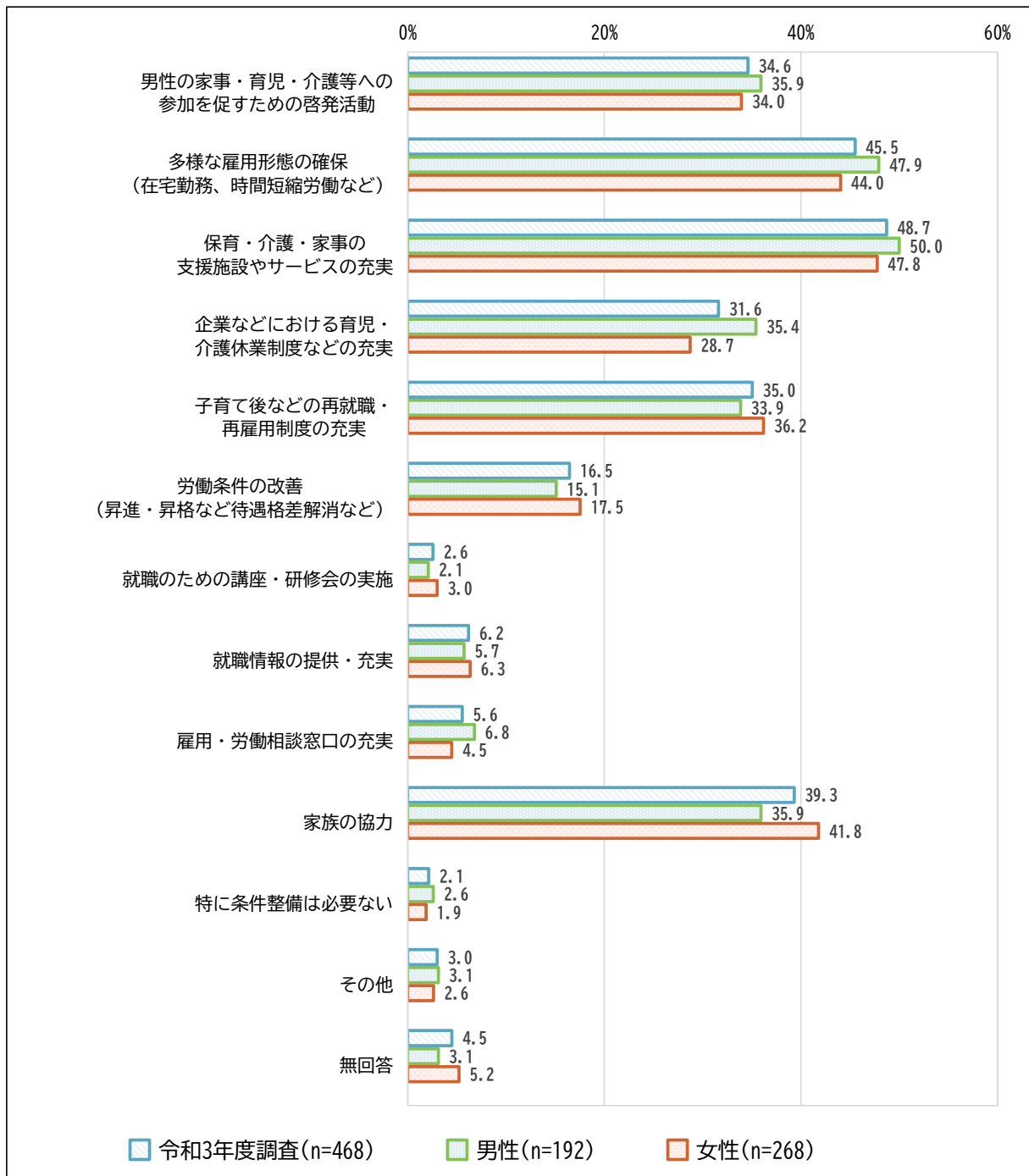
問8 女性が職業をもち続ける上で、障害となっていることはどのようなことだと思いますか。(複数回答)

- 女性が職業をもち続ける上で、障害となっていることについて、全体では、「家事や育児・介護との両立が困難」(73.1%)の割合が最も高く、次いで「子どもの世話を頼める人や施設が不足している」(48.3%)、「育児休業や介護休業などの制度が不十分」(44.7%)となっています。
- 男女別にみると、男性と比較して女性では「家事や育児・介護との両立が困難」、「家族の協力や理解が得られない」、「高齢者の世話を頼める人や施設が不足している」の割合が高くなっています。



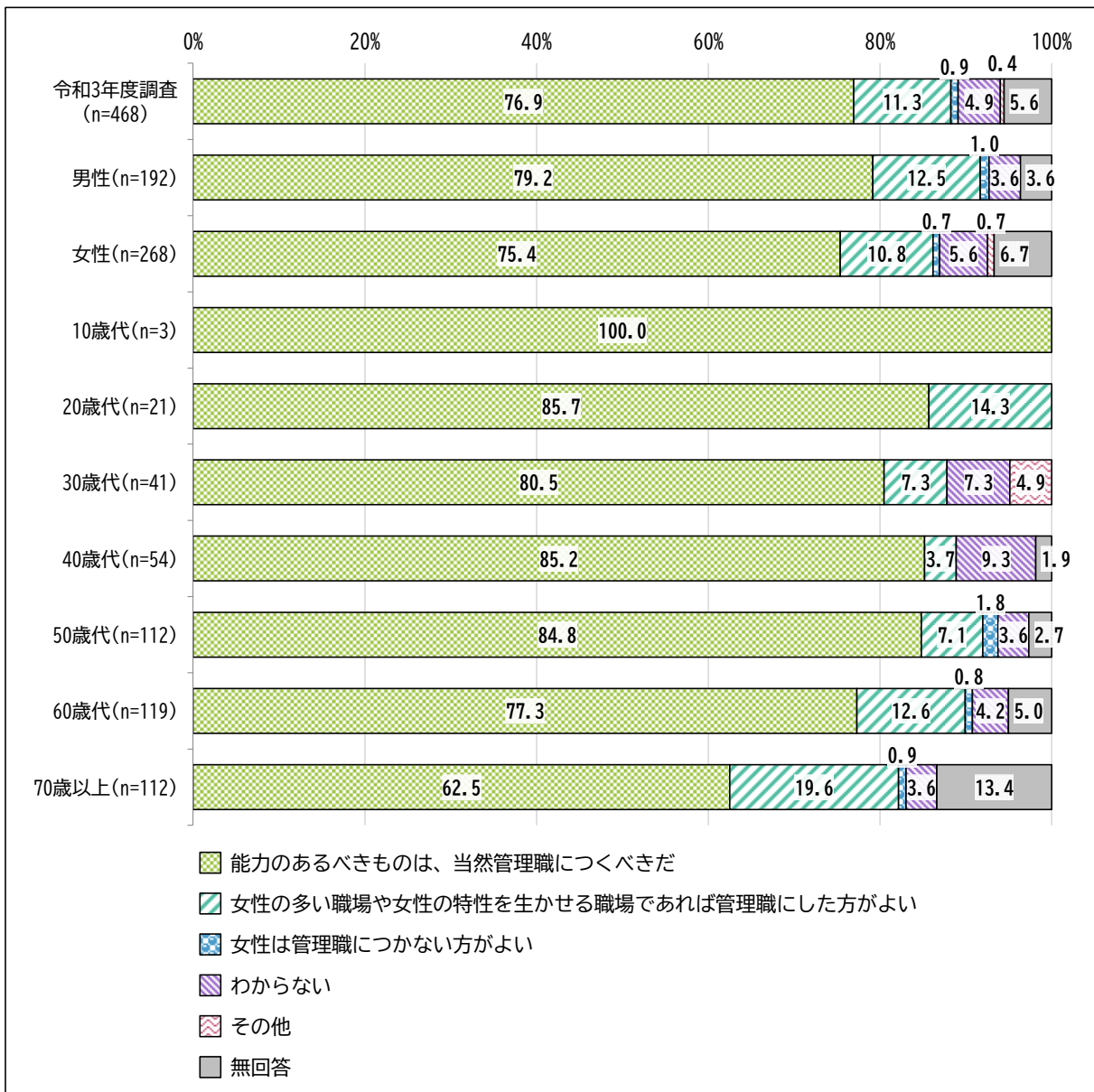
問9 あなたは女性が職業をもつために、どのような条件整備が必要だと思いますか。
【3つまで選択】（複数回答）

- 女性が職業をもつために、どのような条件整備が必要かについて、全体では、「保育・介護・家事の支援施設やサービスの充実」（48.7%）の割合が最も高く、次いで「多様な雇用形態の確保（在宅勤務、時間短縮労働など）」（45.5%）、「家族の協力」（39.3%）となっています。
- 男女別にみると、男性と比較して女性では「家族の協力」の割合が5.9ポイント高く、女性と比較して男性では「企業などにおける育児・介護休業制度などの充実」の割合が6.7ポイント高くなっています。



問 10 あなたは女性が管理職につくことについてどう思いますか。(単数回答)

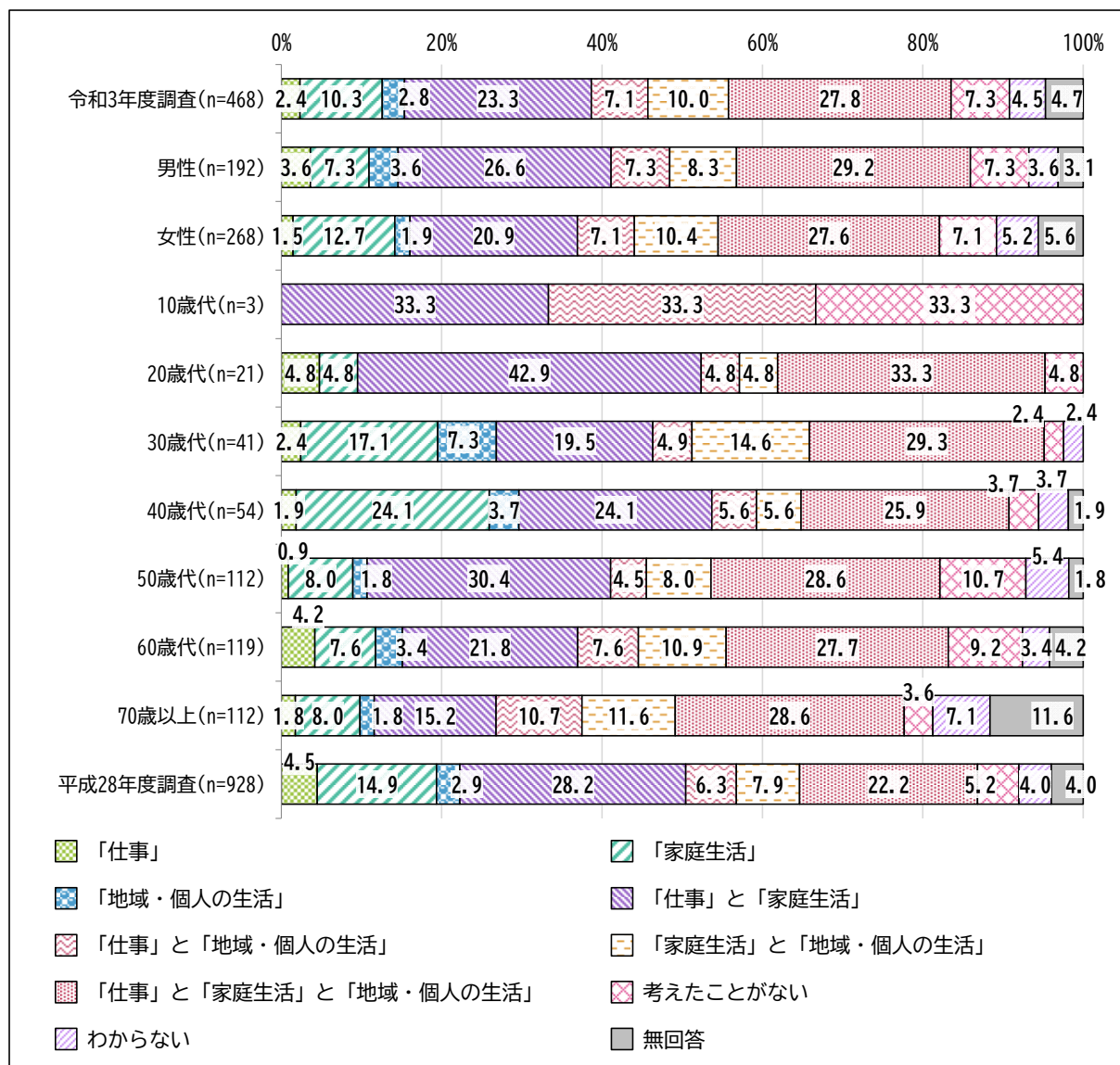
- 女性が管理職につくことについて、全体では、「能力のあるべきものは、当然管理職につくべきだ」(76.9%)の割合が最も高く、次いで「女性の多い職場や女性の特性を生かせる職場であれば管理職にした方がよい」(11.3%)、「わからない」(4.9%)となっています。
- 男女別にみると、男女間であまり差はみられませんが、男性、女性ともに「能力のあるべきものは、当然管理職につくべきだ」の割合が最も高く、7割を超えています。
- 年代別にみると、どの年代においても「能力のあるべきものは、当然管理職につくべきだ」の割合が最も高くなっています。



5 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)について

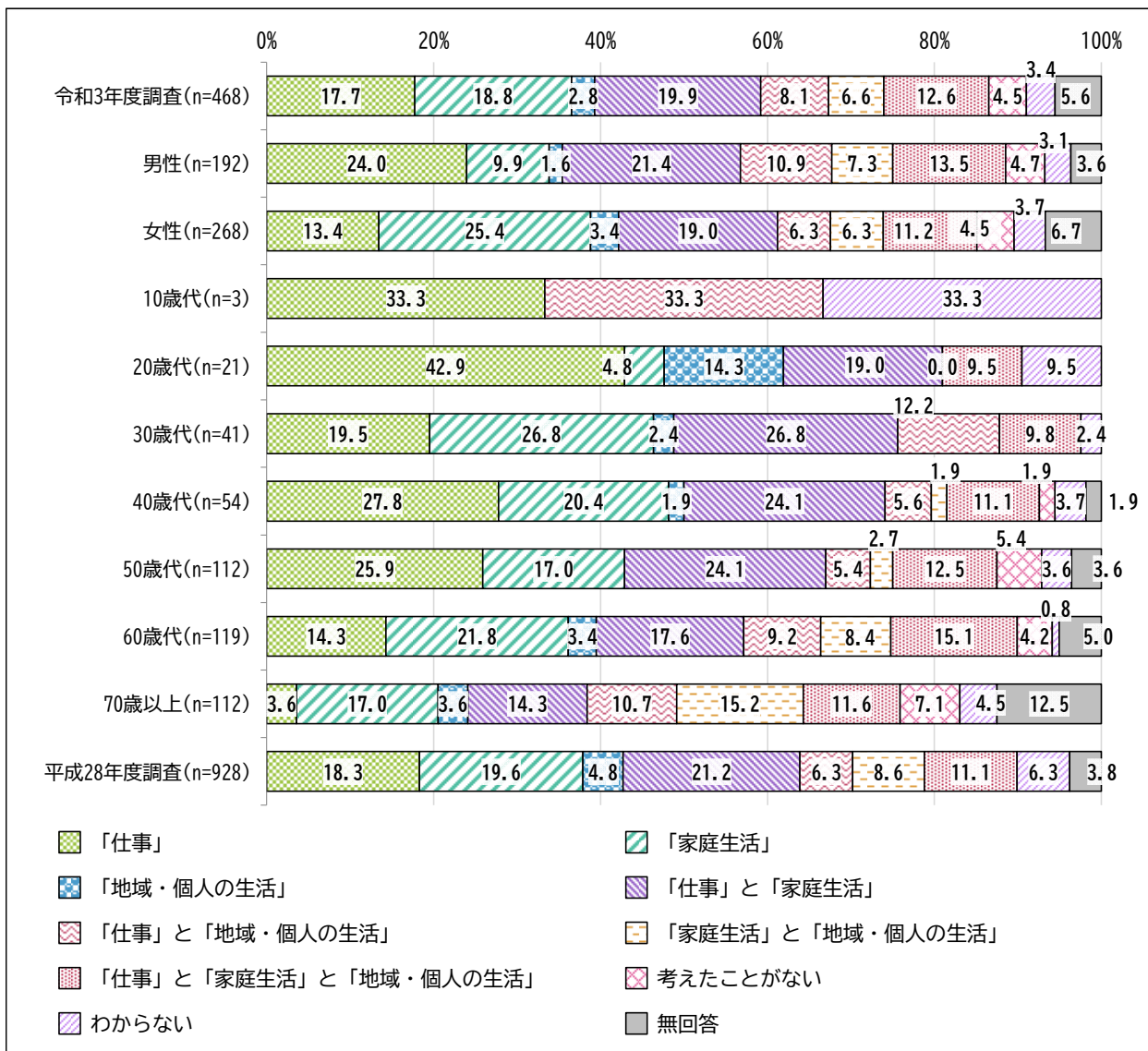
問 11 今、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進が求められていますが、あなたの希望についてお聞きします。「仕事」、「家庭生活」（家事・育児・介護等）、「地域・個人の生活」（地域活動・趣味・付き合い等）について、優先したいものはどれですか。（単数回答）

- 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度について、希望では、『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」』（27.8%）の割合が最も高く、次いで『「仕事」と「家庭生活」』（23.3%）、「家庭生活」（10.3%）となっています。
- 男女別にみると、男女間であまり差はみられず、同等の傾向となっています。
- 年代別にみると、30歳代、40歳代、60歳代以降では『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」』の割合が最も高くなっています。
- 前回調査との比較では、『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」』の割合が5.6ポイント低くなっています。



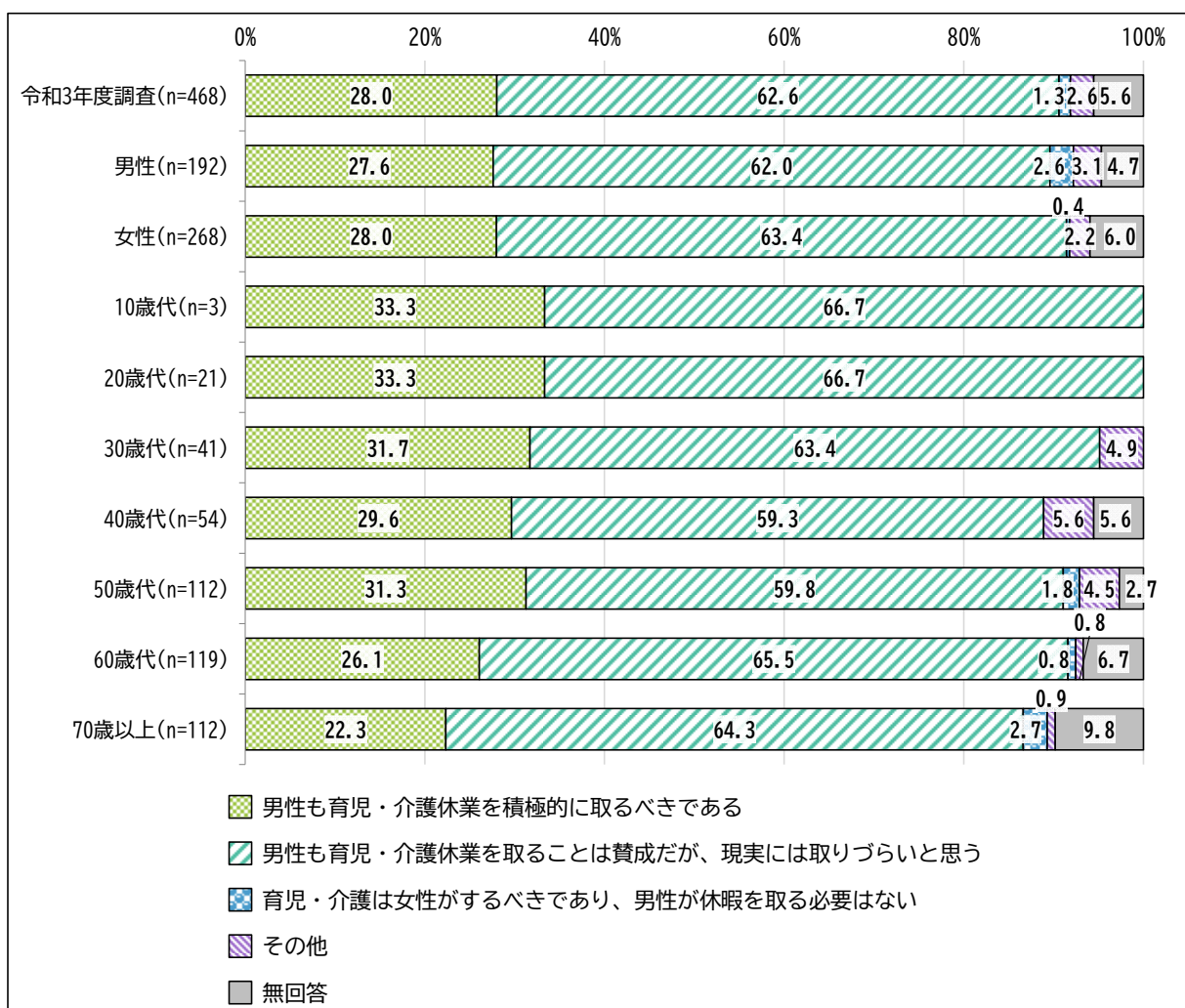
問12 問11では希望をお聞きしましたが、あなたの生活の中で「仕事」、「家庭生活」（家事・育児・介護等）、「地域・個人の生活」（地域活動・趣味・付き合い等）について、現実に優先しているものはどれですか。（単数回答）

- 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度について、現実では、『「仕事」と「家庭生活」』（19.9%）の割合が最も高く、次いで「家庭生活」（18.8%）、「仕事」（17.7%）となっています。
- 男女別にみると、男性では「仕事」（24.0%）の割合が最も高く、女性では「家庭生活」（25.4%）の割合が最も高くなっています。
- 年代別にみると、30歳代から年代が高くなるにつれ『「仕事」と「家庭生活」』の割合が低くなっており、60歳代以降では『「家庭生活」と「地域・個人の生活」』の割合が他の年代と比較して高くなっています。
- 前回調査との比較では、大きな差はみられませんでした。



問 13 男性も育児・介護休業を取ることができますが、このことについてあなたはどのように思いますか。(単数回答)

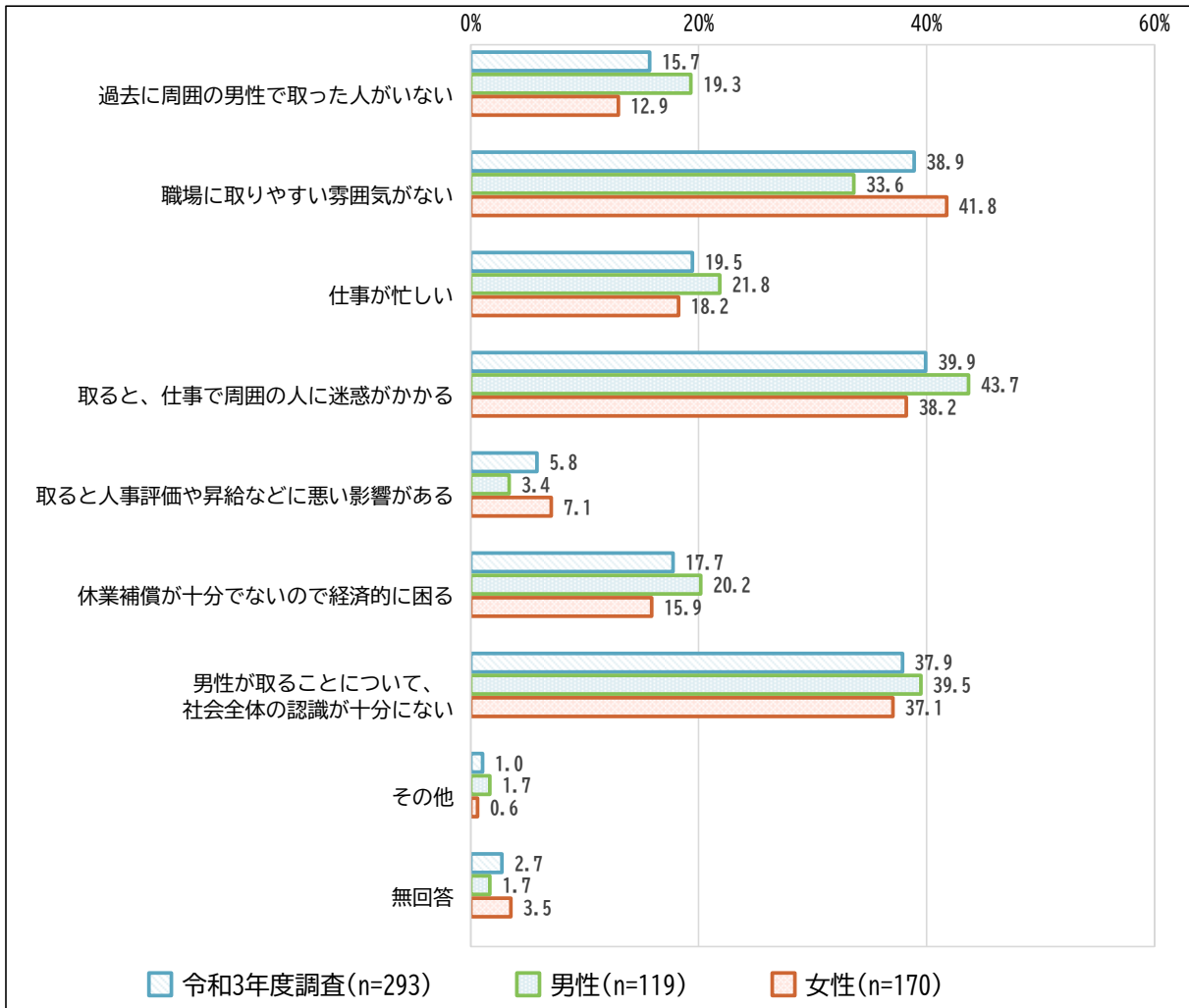
- 「男性も育児・介護休業を取ることができることについて、全体では、「男性も育児・介護休業を取るとは賛成だが、現実には取りづらいと思う」(62.6%)の割合が最も高く、次いで「男性も育児・介護休業を積極的に取るべきである」(28.0%)、「その他」(2.6%)となっています。
- 男女別にみると、男女間であまり差はみられませんが、男性、女性ともに「男性も育児・介護休業を取るとは賛成だが、現実には取りづらいと思う」の割合が最も高く、6割を超えています。
- 年代別でも「男性も育児・介護休業を取るとは賛成だが、現実には取りづらいと思う」の割合が最も高く、どの年代も6割近くとなっています。



■問 13 で「2 男性も育児・介護休業を取ることは賛成だが～」と答えた方におうかがいします。

問 14 現実に取りづらい理由は何だと思いますか。【2つまで選択】（複数回答）

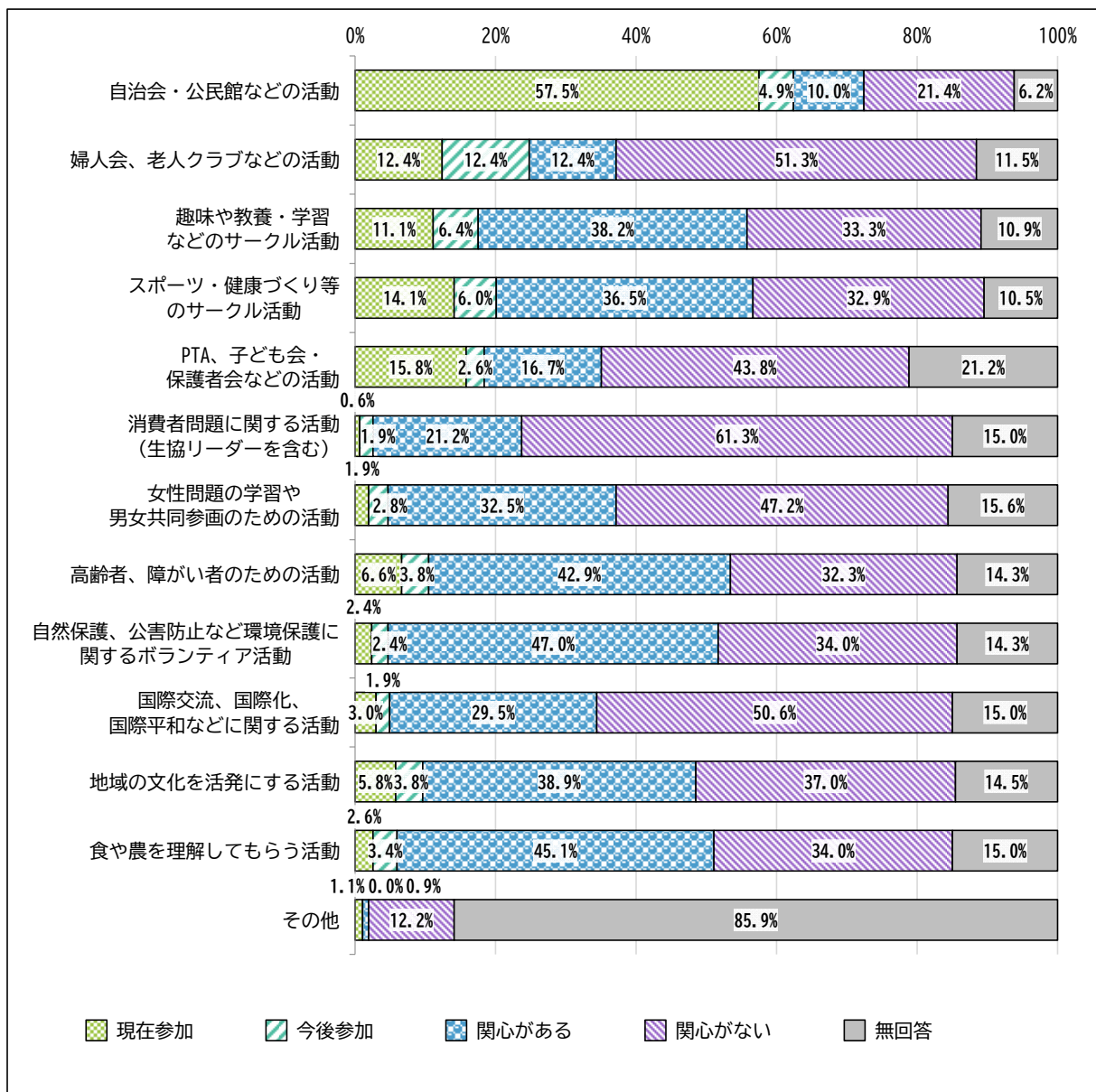
- 現実に取りづらい理由について、全体では、「取ると、仕事で周囲の人に迷惑がかかる」（39.9％）の割合が最も高く、次いで「職場に取りやすい雰囲気がない」（38.9％）、「男性が取ることについて、社会全体の認識が十分でない」（37.9％）となっています。
- 男女別にみると、男性と比較して女性では「職場に取りやすい雰囲気がない」の割合が8.2ポイント高くなっています。



6 地域・社会活動の参加について

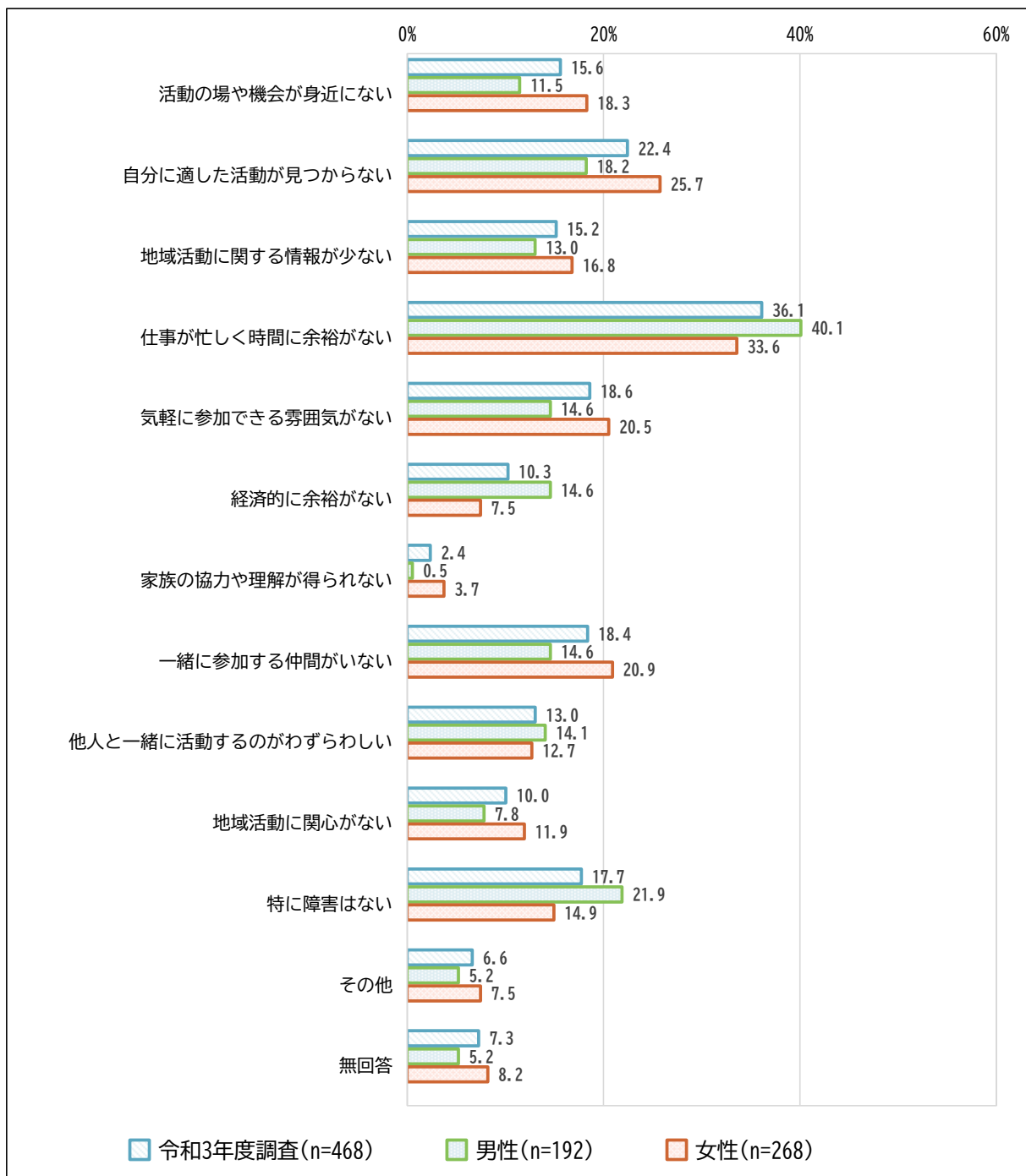
問 15 地域・社会活動の参加についてお伺いします。(単数回答)

- 地域・社会活動の参加について、「現在参加」では、「自治会・公民館などの活動」(57.5%)の割合が最も高く、次いで「PTA、子ども会・保護者会などの活動」(15.8%)、「スポーツ・健康づくり等のサークル活動」(14.1%)となっています。
- 一方、「関心がない」では、「消費者問題に関する活動(生協リーダーを含む)」の割合が最も高くなっており、6割を超えています。



問 16 あなたが、地域活動に参加するうえで障害となっていることはどのようなことだと思いますか。(複数回答)

- 地域活動に参加するうえで障害となっていることについて、全体では、「仕事が忙しく時間に余裕がない」(36.1%)の割合が最も高く、次いで「自分に適した活動が見つからない」(22.4%)、「気軽に参加できる雰囲気がない」(18.6%)となっています。
- 男女別にみると、女性と比較して男性では「仕事が忙しく時間に余裕がない」の割合が6.5ポイント、「特に障害はない」が7.0ポイント高く、男性と比較して女性では「活動の場や機会が身近にない」の割合が6.8ポイント、「自分に適した活動が見つからない」が7.5ポイント高くなっています。

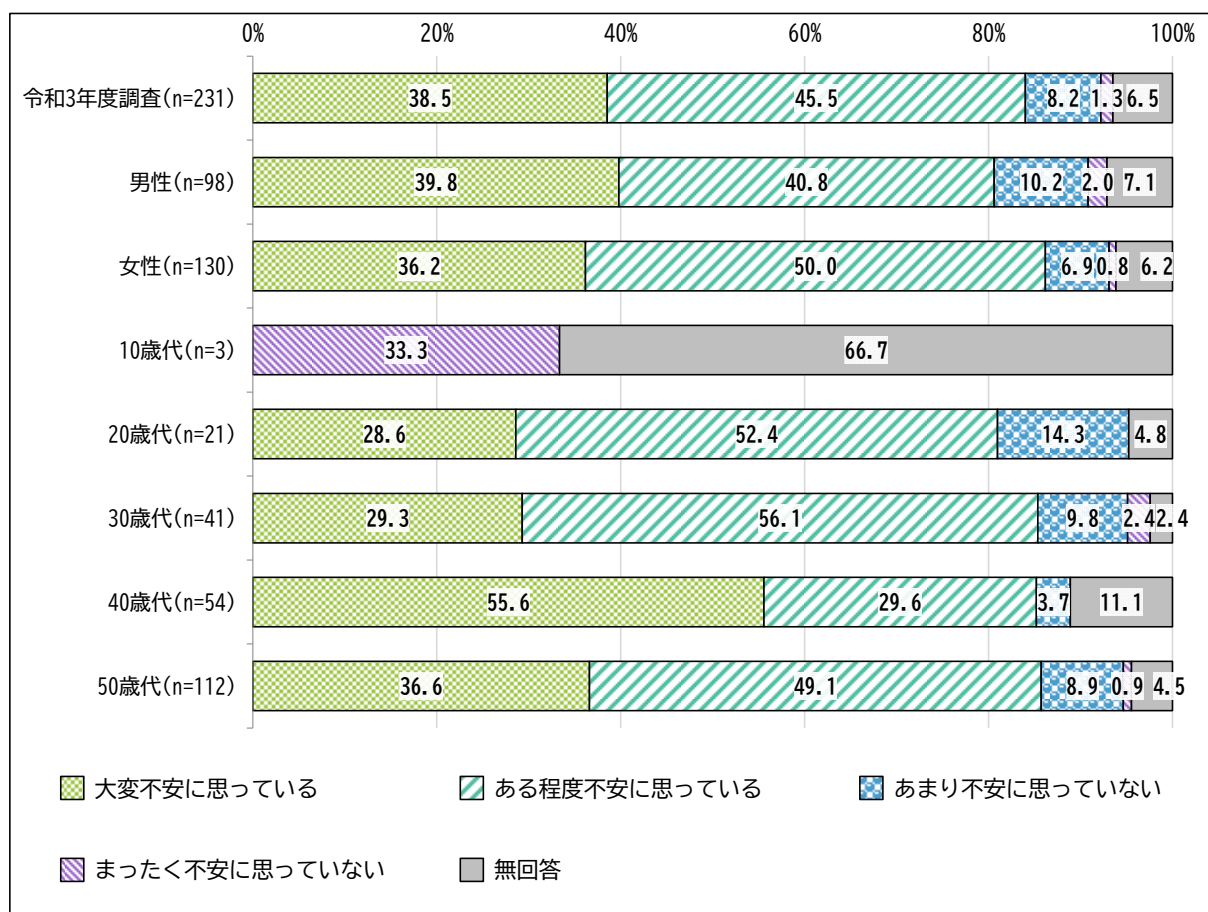


7 高齢期の生活について

■問 17 から問 19 は、60 歳未満の方のみご回答ください。

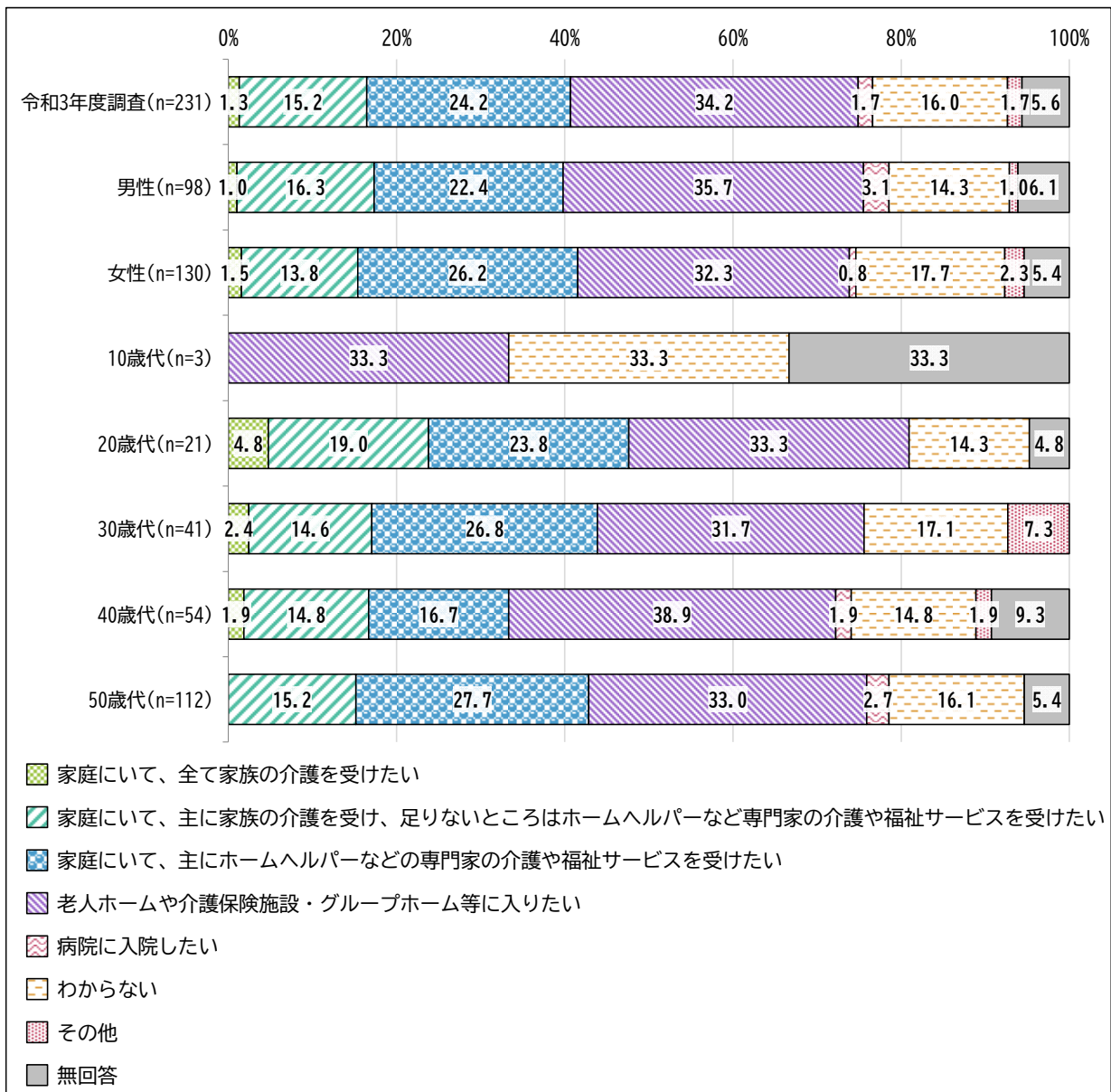
問 17 あなたは将来の高齢期の生活についてどの程度不安を感じていますか。(単数回答)

- 将来の高齢期の生活についてどの程度不安を感じているかについて、全体では、「ある程度不安に思っている」(45.5%)の割合が最も高く、次いで「大変不安に思っている」(38.5%)、「あまり不安に思っていない」(8.2%)となっています。
- 男女別にみると、男女間であまり差はみられず、同等の傾向となっています。
- 年代別にみると、40 歳代では「大変不安に思っている」の割合が他の年代と比較して高くなっています。



問 18 あなたに介護が必要になった場合、どのような介護の方法を望みますか。(単数回答)

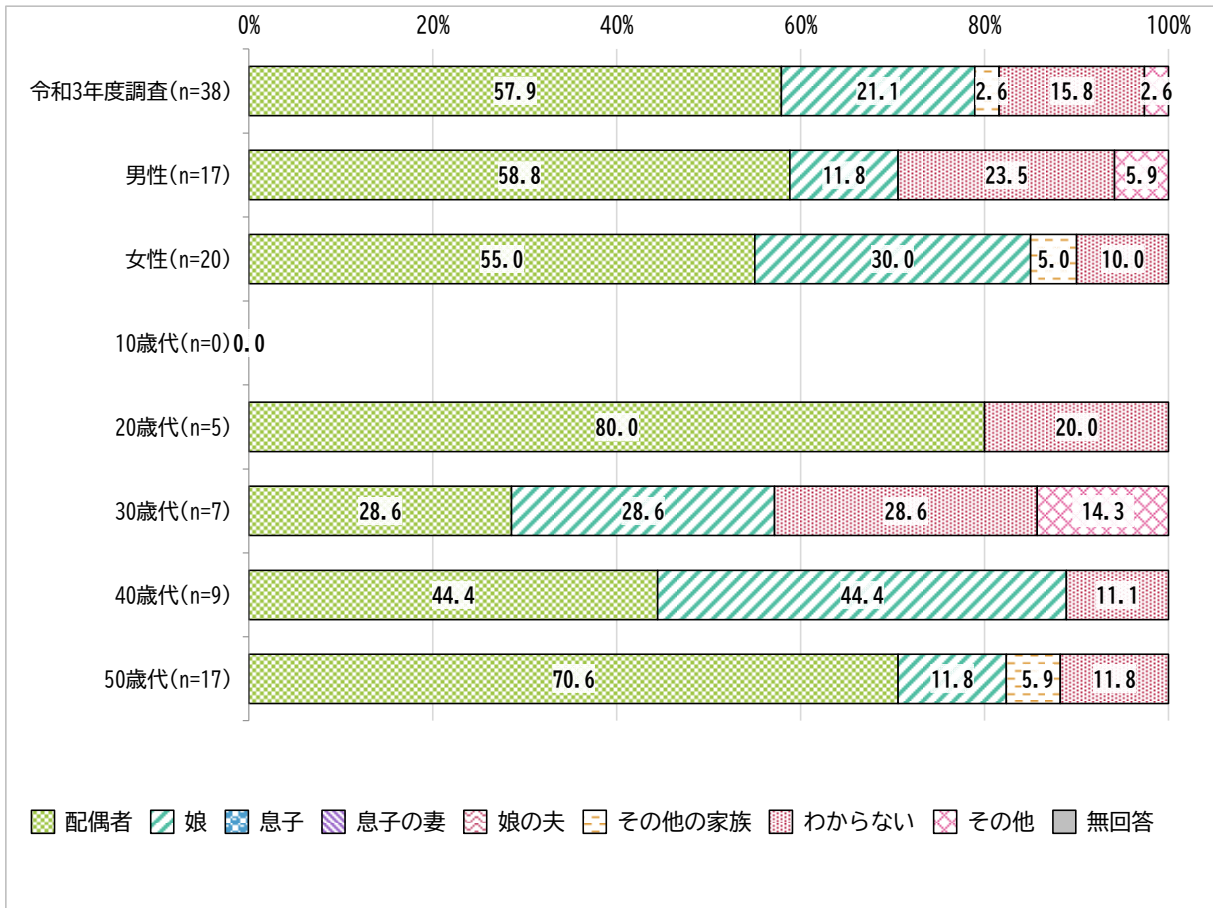
- 介護が必要になった場合、どのような介護の方法を望むかについて、全体では、「老人ホームや介護保険施設・グループホーム等に入りたい」(34.2%)の割合が最も高く、次いで「家庭にいて、主にホームヘルパーなど専門家の介護や福祉サービスを受けたい」(24.2%)、「わからない」(16.0%)となっています。
- 男女別にみると、男女間であまり差はみられず、同等の傾向となっています。
- 年代別にみると、どの年代においても「老人ホームや介護保険施設・グループホーム等に入りたい」の割合が高く、3割強となっています。



■問18で「1」又は「2」と答えた方におうかがいします。

問19 その場合、どなたに介護してもらうことになると思いますか。(単数回答)

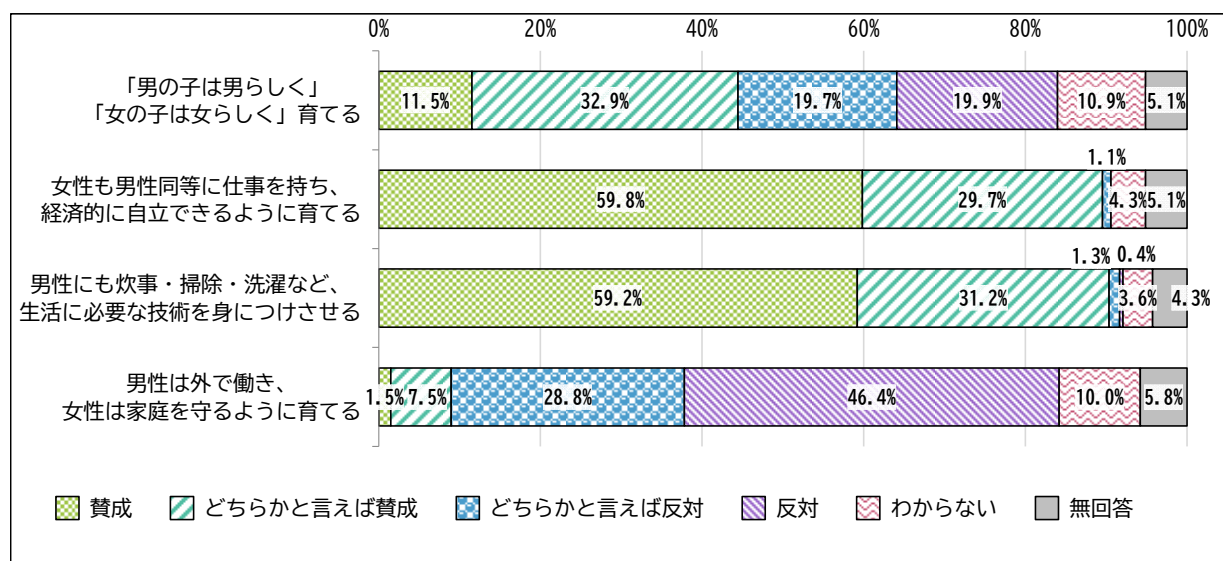
- 介護が必要になった場合の介護者について、全体では、「配偶者」(57.9%)の割合が最も高く、次いで「娘」(21.1%)、「わからない」(15.8%)となっています。
- 男女別にみると、男性と比較して女性では「娘」の割合が18.2ポイント高く、女性と比較して男性では「わからない」の割合が13.5ポイント高くなっています。



8 子どもの教育について

問 20 次のようなことがらについて、あなたはどのように思われますか。(単数回答)

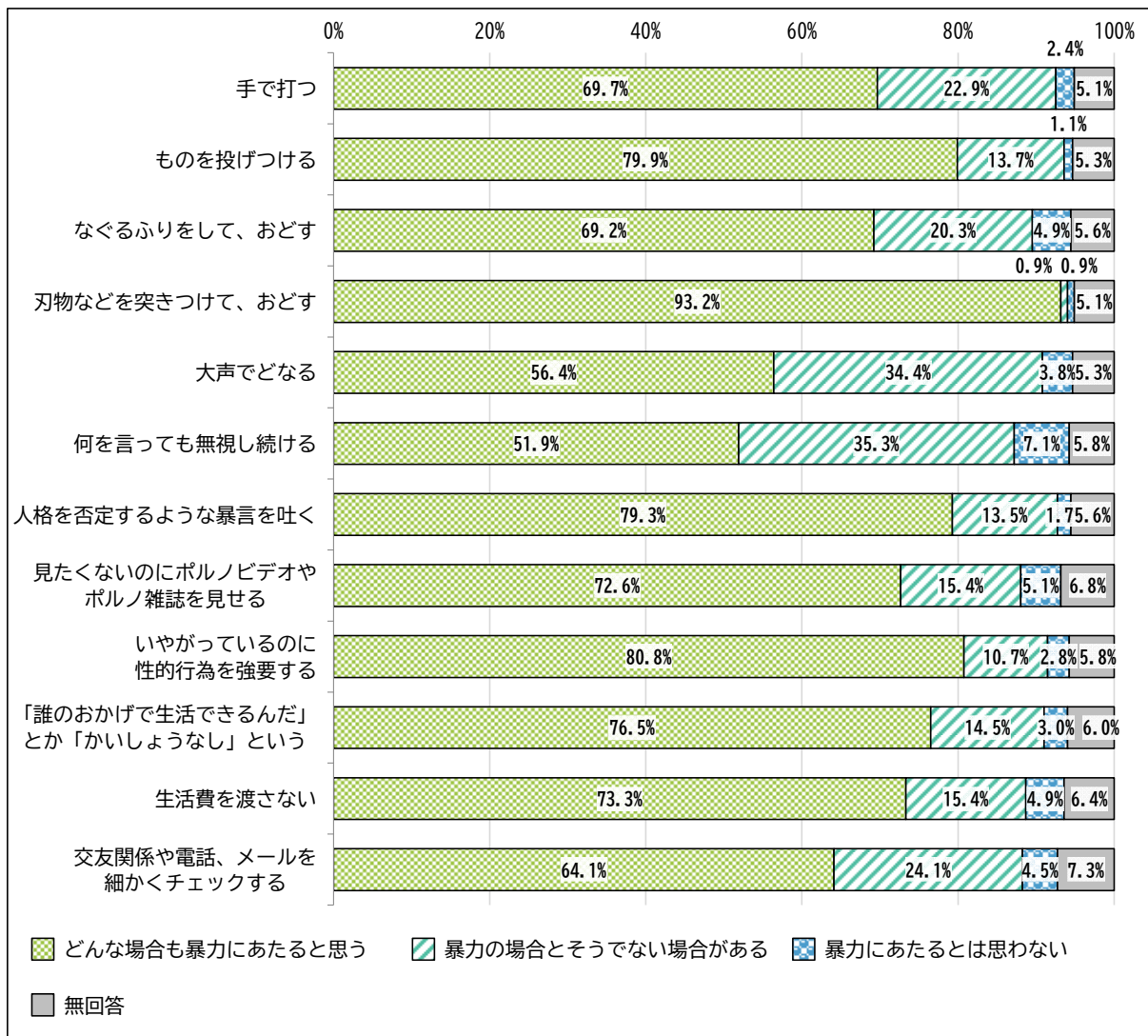
- 各ことがらについて、「賛成」では、「女性も男性同等に仕事を持ち、経済的に自立できるように育てる」(59.8%)の割合が最も高く、次いで「男性にも炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる」(59.2%)となっています。
- 一方、「反対」では「男性は外で働き、女性は家庭を守るように育てる」の割合が最も高く、5割近くとなっています。



9 ドメスティック・バイオレンス(配偶者・恋人間の暴力)について

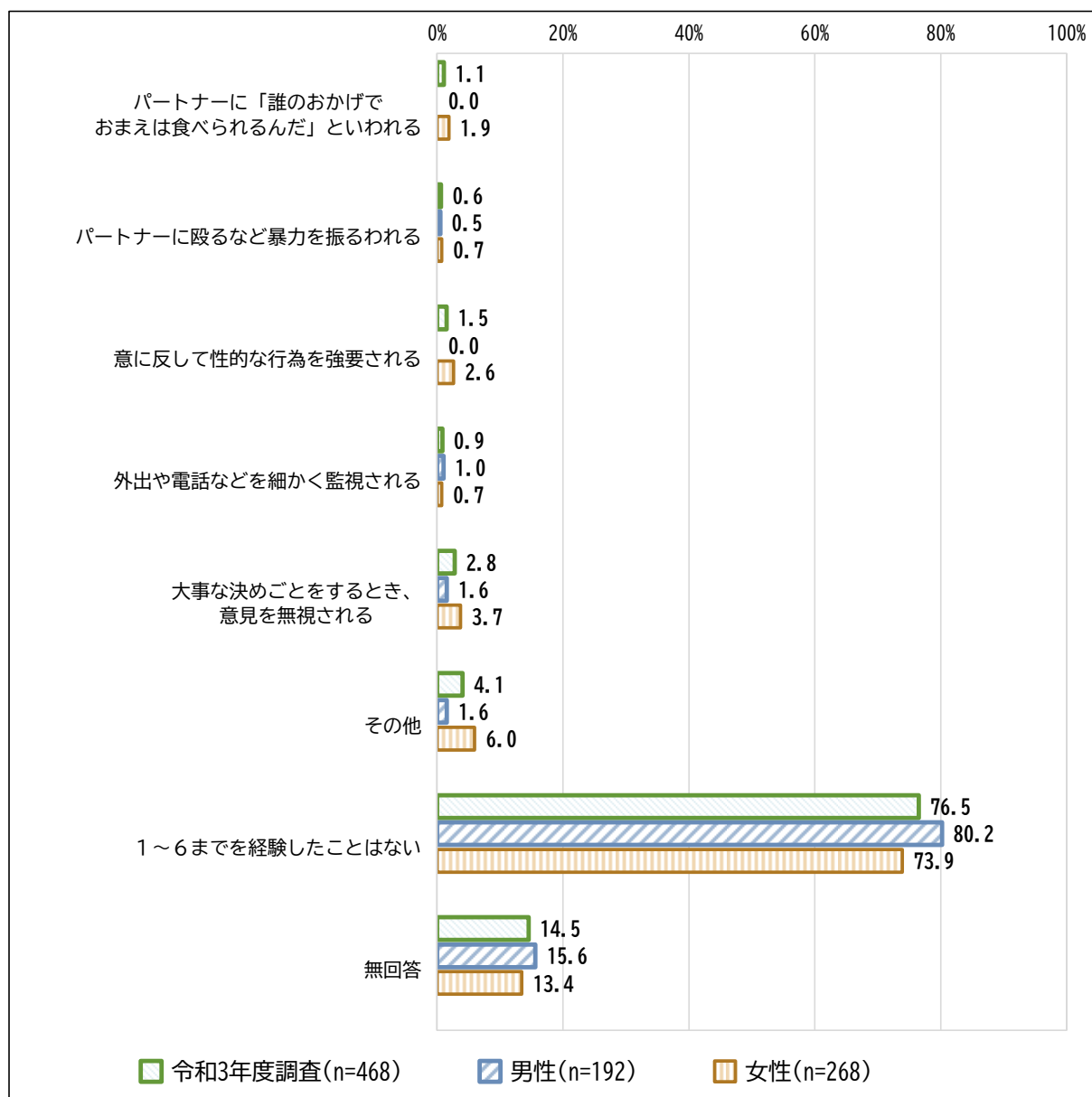
問 21 あなたの配偶者または恋人が、次の1～12 にあげるようなことをした場合、それを暴力だと思えますか。(単数回答)

- 配偶者または恋人が、次にあげるようなことをした場合、それを暴力だと思うかについて、全項目において高い割合になっていますが、「刃物などを突きつけて、おどす」の割合が最も高く、9割を超えています。



問 22 夫婦間（恋人間も含む。）での次の行為について、あなたがこの1年以内に経験したことをいくつか選んで番号に○印をつけてください。（複数回答）

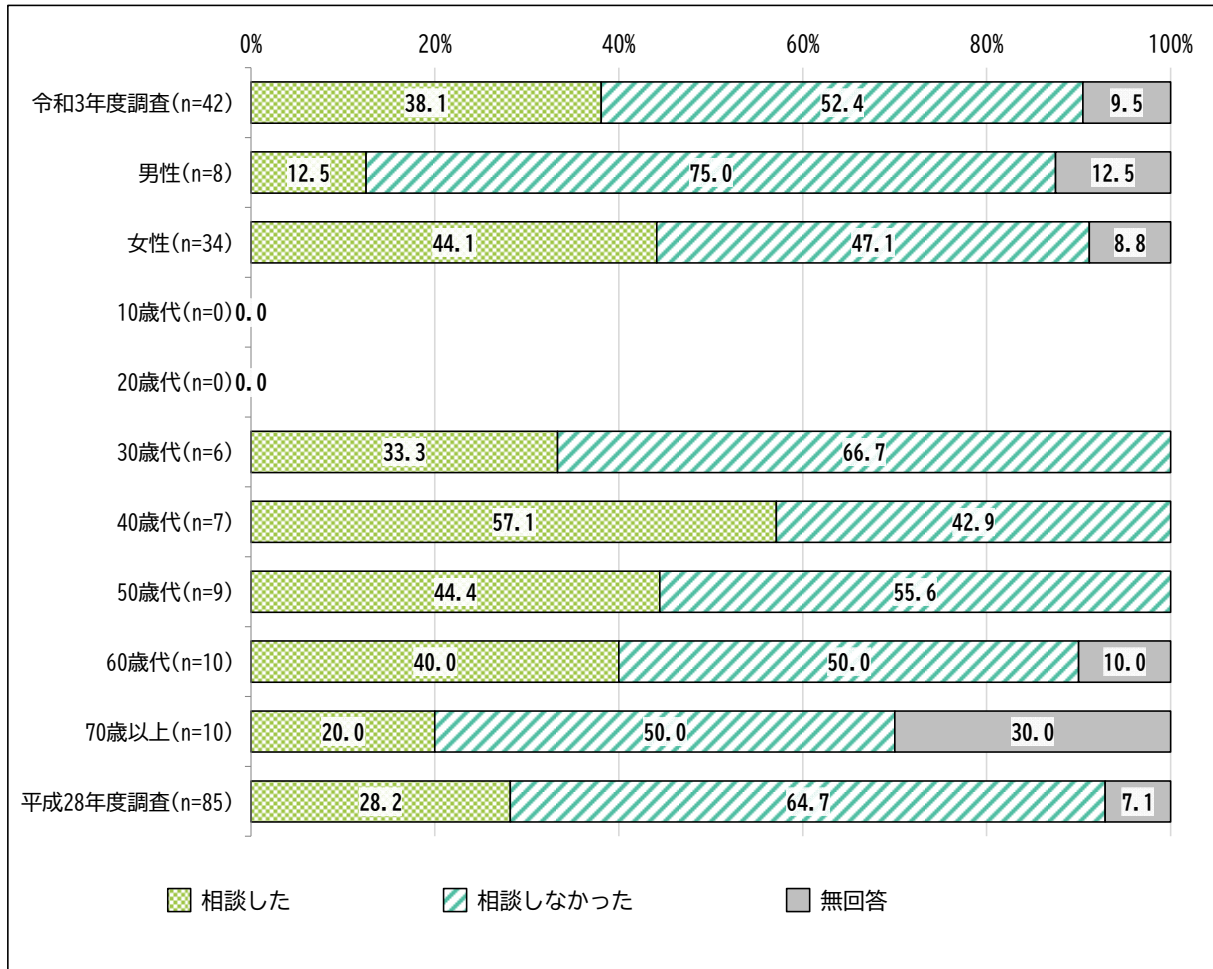
- この1年以内のDV経験について、8割近くの方が「1～6までを経験したことはない」と回答しています。経験したと答えた方はいずれの項目もわずかではありますが、その中では「その他」（4.1%）が最も多く、次いで「大事な決めごとをするとき、意見を無視される」（2.8%）となっています。
- 男女別でも同等の傾向となっています。



■問22で「1」～「6」に1つでも○をつけた方におうかがいします。

問23 あなたは、その受けた行為について誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(単数回答)

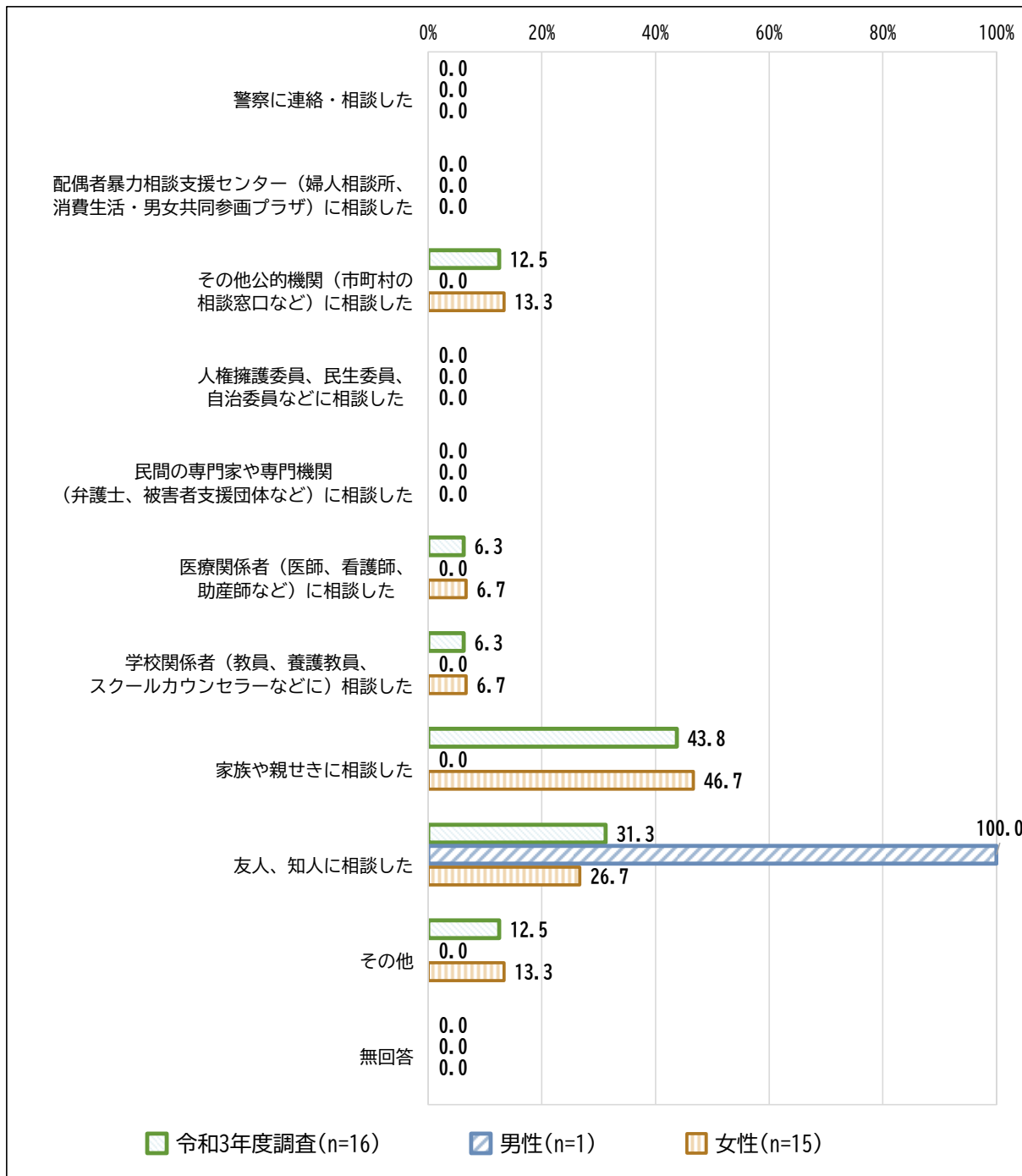
- DV被害について誰かに打ち明けたり、相談したりしたかについて、「相談した」が38.1%、「相談しなかった」が52.4%となっています。
- 前回調査との比較では、「相談した」の割合が9.9ポイント高くなっています。



■問 23 で「1 相談した」と答えた方におうかがいします。

問 24 あなたが相談した人（場所）を教えてください。（複数回答）

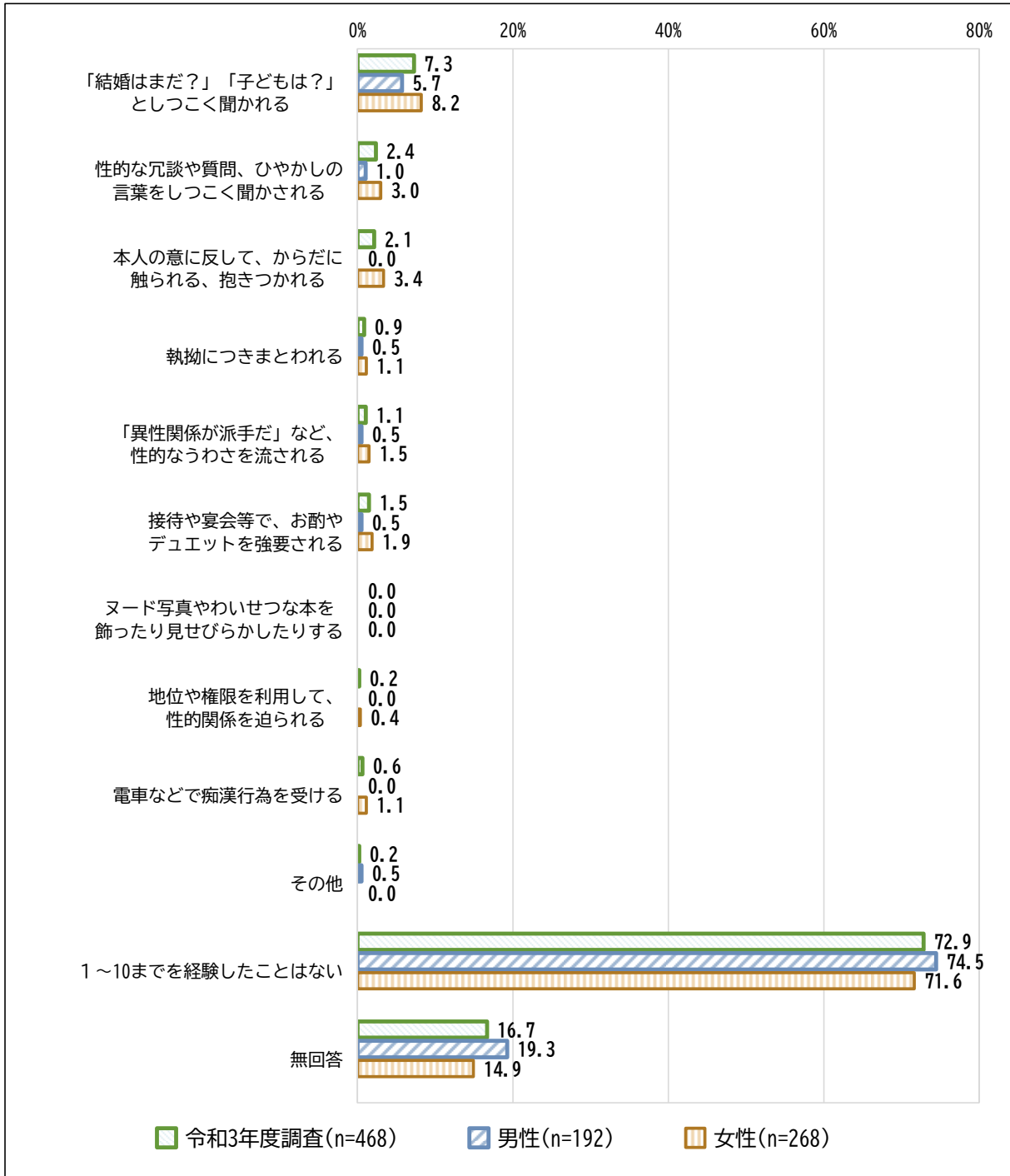
●DV 被害の相談をした方の相談先は、全体では、「家族や親せきに相談した」（43.8%）、次いで「友人、知人に相談した」（31.3%）となっています。



10 男女の人権について

問 25 あなたは職場や地域社会などで次のような経験をしたことがありますか。(複数回答)

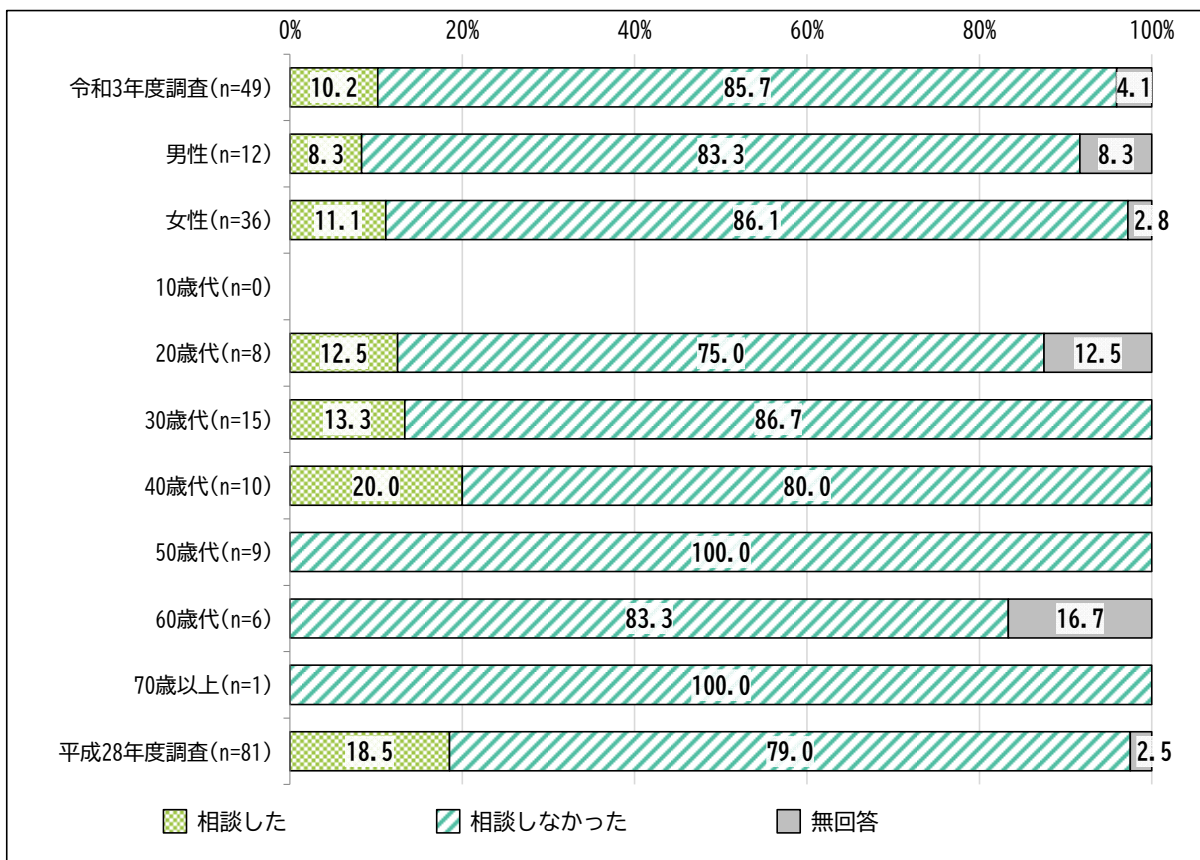
- この1年以内のセクシュアル・ハラスメント経験について、7割以上の方が「1～10 までを経験したことはない」と回答しています。
- 経験した行為の中で割合が最も高かったのは、全体、男女ともに『「結婚はまだ?」「子どもは?」としつこく聞かれる』となっています。



■問 25 で「1」～「10」に1つでも○をつけた方におうかがいします。

問 26 あなたは、その受けた行為について誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(単数回答)

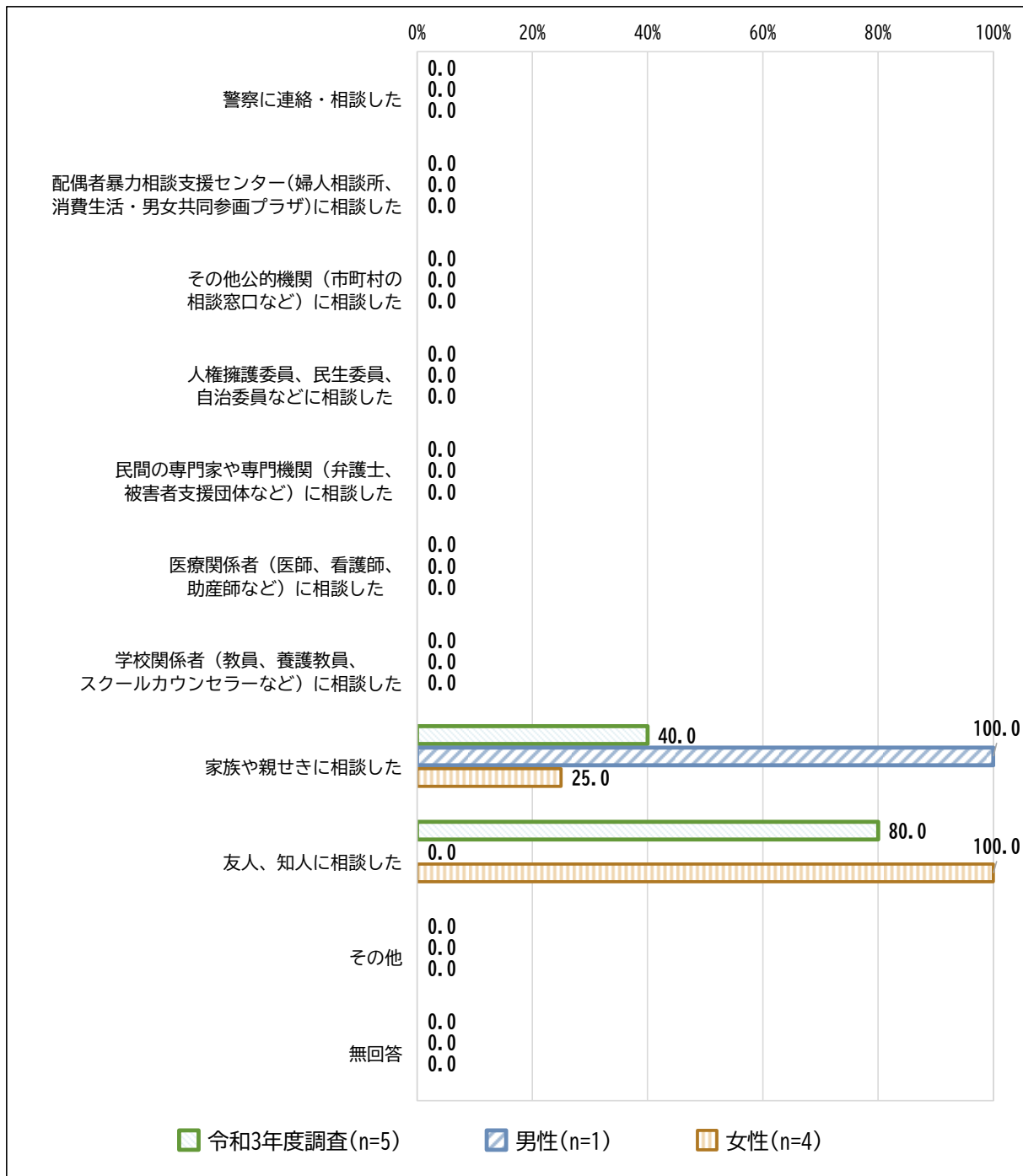
- セクシュアル・ハラスメントの相談をした方は、全体では、「相談した」が10.2%、「相談しなかった」が85.7%となっており、全体で約1割の方しか相談していないという結果になっています。
- 男女別にみると、「相談した」の割合は女性で11.1%、男性では8.3%とさらに少なくなっています。
- 前回調査との比較では、「相談した」の割合が8.3ポイント低くなっています。



■問 26 で「1 相談した」と答えた方におうかがいします。

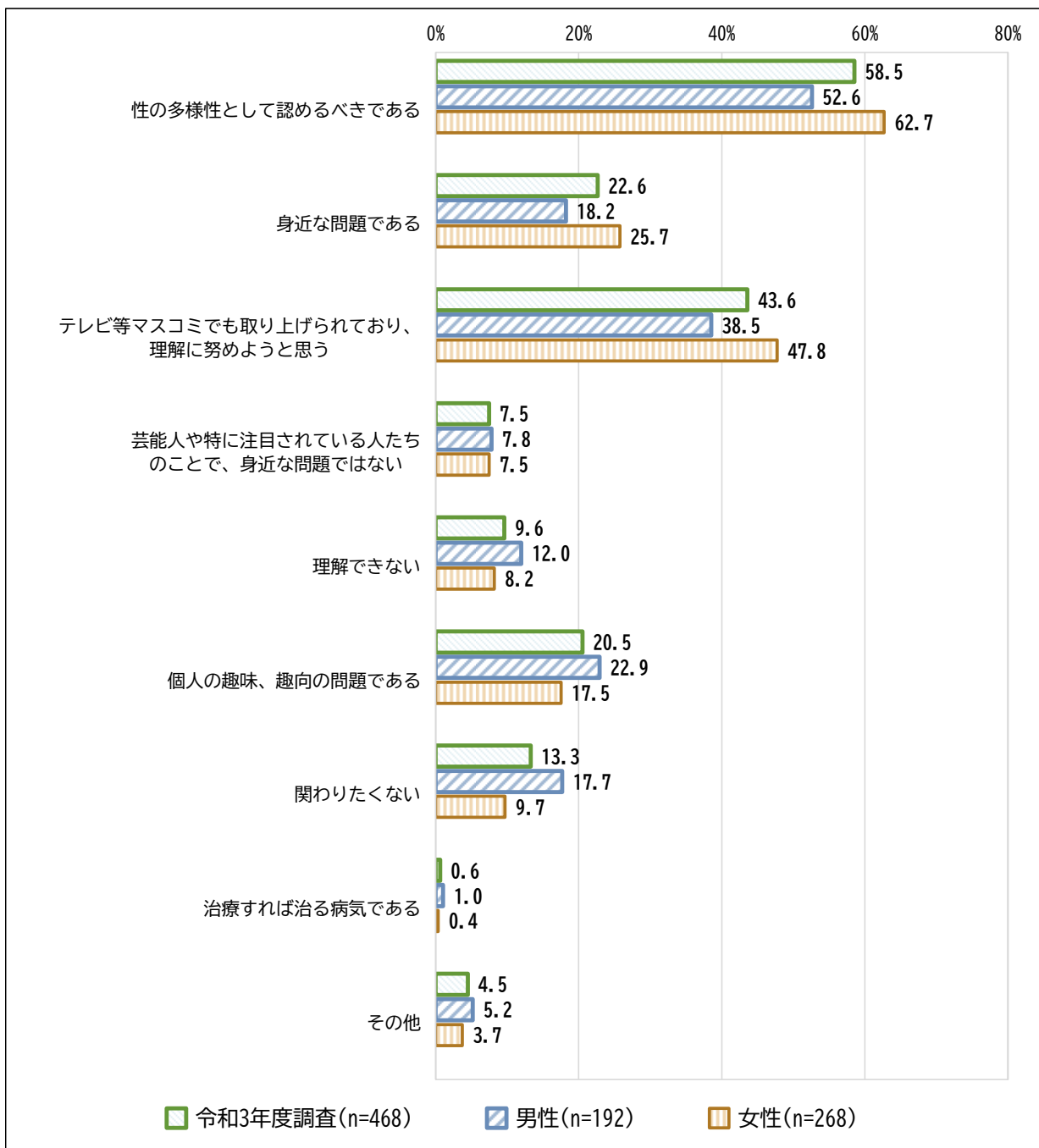
問 27 あなたが相談した人（場所）を教えてください。（複数回答）

●セクシュアル・ハラスメントの相談した人（場所）について、全体では、「友人、知人に相談した」（80.0％）の割合が最も高く、次いで「家族や親せきに相談した」（40.0％）となっています。



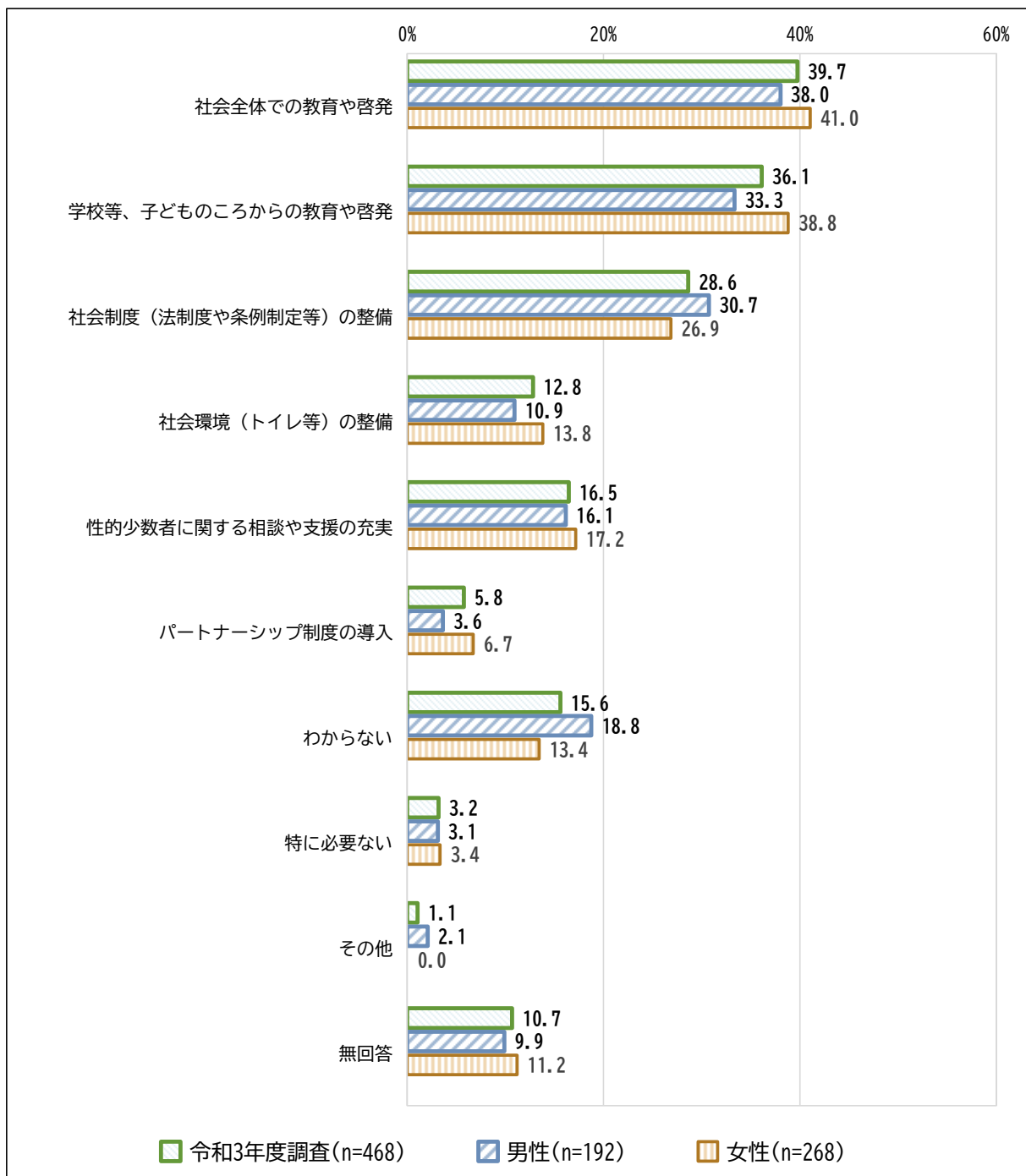
問 28 LGBTQなどの性的マイノリティにどのような考えやイメージをおもちですか。【3つまで選択】（複数回答）

- LGBTQなどの性的マイノリティにどのような考えやイメージをおもちですかについて、全体では、「性の多様性として認めるべきである」（58.5%）の割合が最も高く、次いで「テレビ等マスコミでも取り上げられており、理解に努めようと思う」（43.6%）、「身近な問題である」（22.6%）となっています。
- 男女別にみると、男性と比較して女性では「性の多様性として認めるべきである」、「身近な問題である」、「テレビ等マスコミでも取り上げられており、理解に努めようと思う」の割合が高く、女性と比較して男性では「関わりたくない」の割合が高くなっています。



問 29 L G B T Qなどの性的マイノリティの人たちの人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。【2つまで選択】（複数回答）

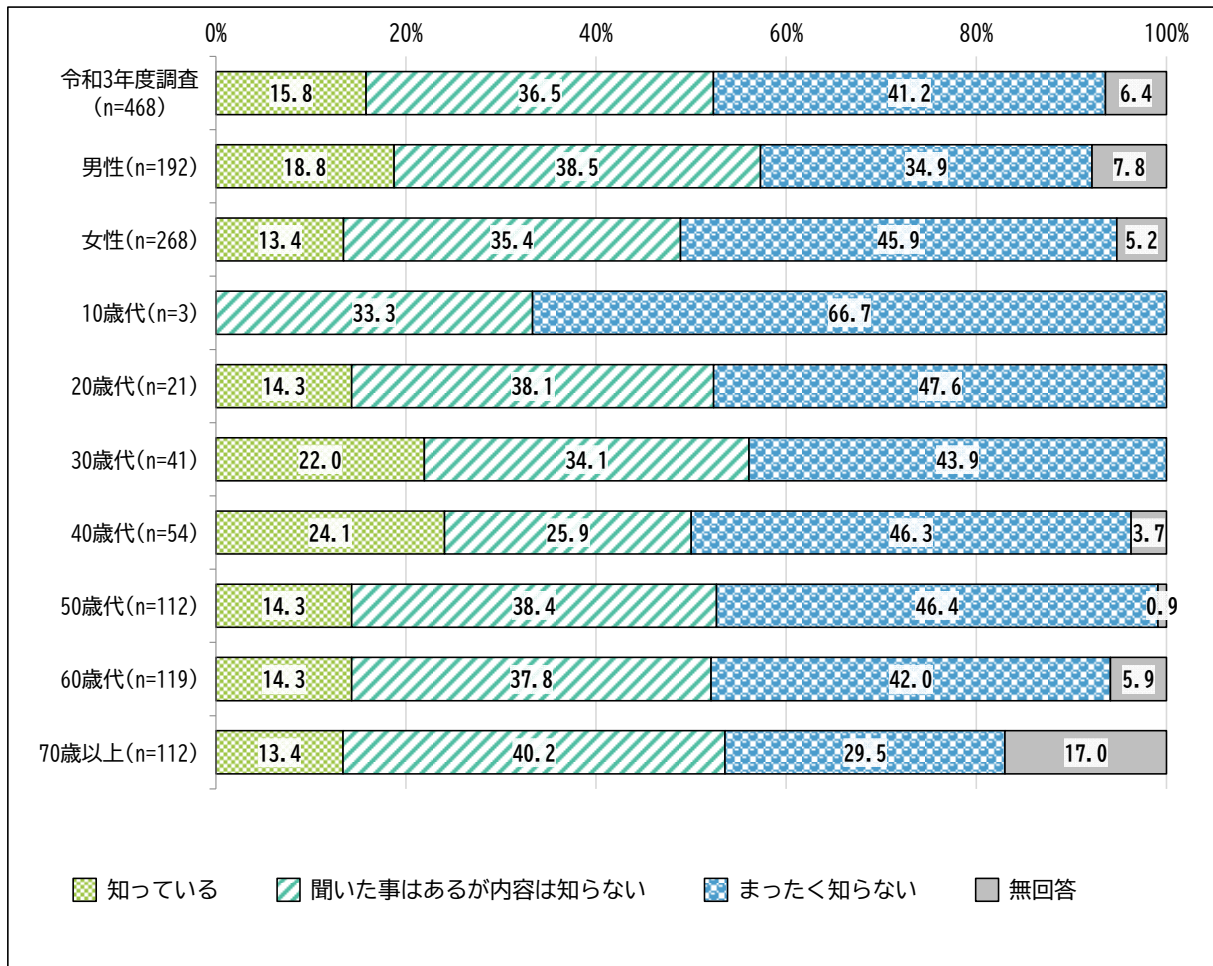
- L G B T Qなどの性的マイノリティの人たちの人権を守るためには、どのようなことが必要だと思うかについて、全体では、「社会全体での教育や啓発」(39.7%)の割合が最も高く、次いで「学校等、子どものころからの教育や啓発」(36.1%)、「社会制度（法制度や条例制定等）の整備」(28.6%)となっています。
- 男女別にみると、男性と比較して女性では「学校等、子どものころからの教育や啓発」の割合が高く、女性と比較して男性では「社会制度（法制度や条例制定等）の整備」、「わからない」の割合が高くなっています。



1.1 女性の活躍について

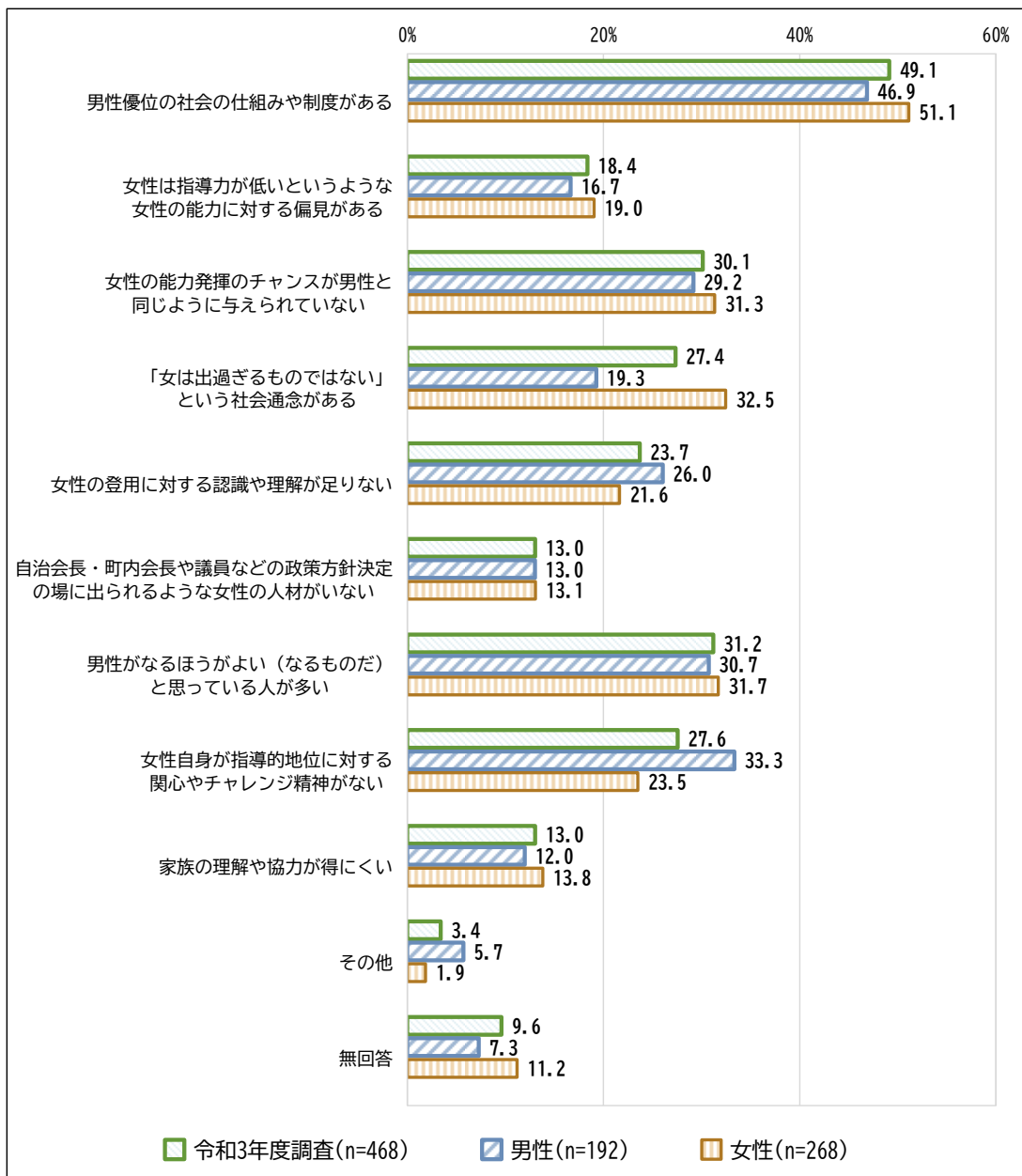
問 30 あなたは、女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）が成立し、平成 28 年 4 月より施行されていることを知っていますか。（単数回答）

- 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）が成立し、平成 28 年 4 月より施行されていることを知っているかについて、全体では、「まったく知らない」（41.2%）の割合が最も高く、次いで「聞いた事はあるが内容は知らない」（36.5%）、「知っている」（15.8%）となっています。
- 男女別にみると、男性と比較して女性では「まったく知らない」の割合が 11.0 ポイント高くなっています。
- 年代別にみると、70 歳以上を除き「まったく知らない」の割合が最も高くなっています。



問 31 女性の社会進出が進んでいますが、議員、審議会委員や役員・管理職などの指導的地位や自治会・町内会の長などに占める女性の割合はまだ低いのが現状です。このような指導的地位等に女性の参画が少ない理由は何だと思えますか。【3つまで選択】（複数回答）

- 議員、審議会委員や役員・管理職などの指導的地位や自治会・町内会の長などに女性の参画が少ない理由について、全体では、「男性優位の社会の仕組みや制度がある」(49.1%)の割合が最も高く、次いで「男性になるほうがよい(なるものだ)」と思っている人が多い(31.2%)、「女性の能力発揮のチャンスが男性と同じように与えられていない」(30.1%)となっています。
- 男女別にみると、男性と比較して女性では『「女は出来過ぎるものではない」という社会通念がある』の割合が13.2ポイント高く、女性と比較して男性では「女性自身が指導的地位に対する関心やチャレンジ精神がない」の割合が9.8ポイント高くなっています。



1 2 男女共同参画推進に向けた施策について

問 32 「男女共同参画社会」を実現するために、今後、市の行政はどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。【3つまで選択】（複数回答）

- 「男女共同参画社会」を実現するために、今後、市の行政はどのようなことに力を入れたらよいと思うかについて、全体では、「学校教育の場で、男女平等意識を育てる教育を充実する」(44.7%)の割合が最も高く、次いで「保育所・学童保育の施設・サービスを充実する」(25.9%)となっています。
- 男女別にみると、男性と比較して女性では「保育所・学童保育の施設・サービスを充実する」の割合が5.1ポイント高く、女性と比較して男性では「市が率先して女性管理職の登用を図る」の割合が9.9ポイント高くなっています。

